

3 日常生活圏域別地域データ

葵-1 城西

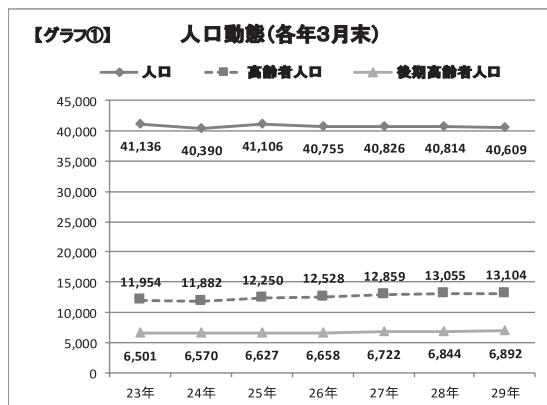
共通事項

葵区城西圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	19,890人	65歳以上人口	6,377人	高齢化率	32.06%
世帯数	9,769世帯	75歳以上人口	3,399人	後期高齢化率	17.08%
主な小学校区	新通小、駒形小、田町小		保健福祉センター	城東	

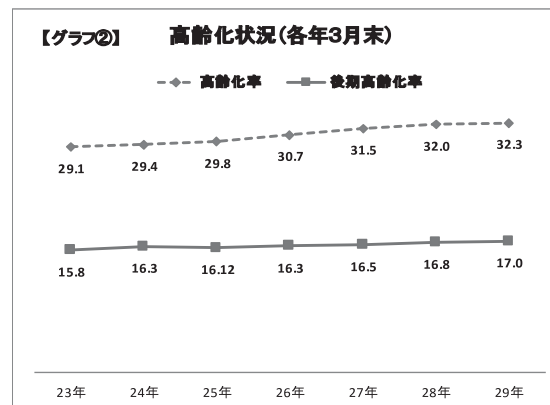
地理的状況	市の中心部から西側へ安倍川までの地域で東西に南側を国道一号線、北側を本通が走っており、この幹線道路を中心として交通の便も良いエリア。大きな傾斜もなく自転車等での移動もしやすい。
地域の現状	平成 30 年の圏域の分割・見直しにより中心市街地の繁華街は再編され圏域から外れたが、地域には古くからの商店街が根付いており、元々この地域に住まわれていた方々が多い。また、建築から年月のたった集合住宅等も多く高齢者の一人暮らしが増加している一方、集合住宅は状態の把握が難しい状況にある。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における城西圏域のデータ

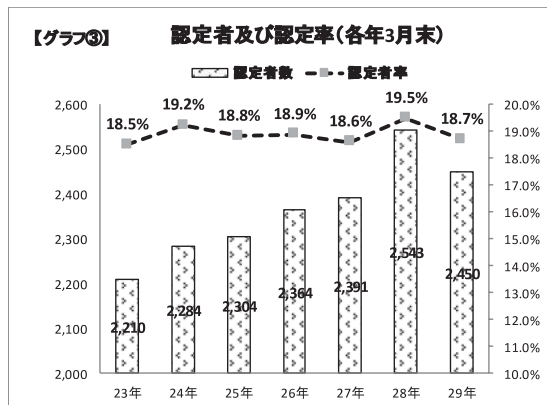
人口推移



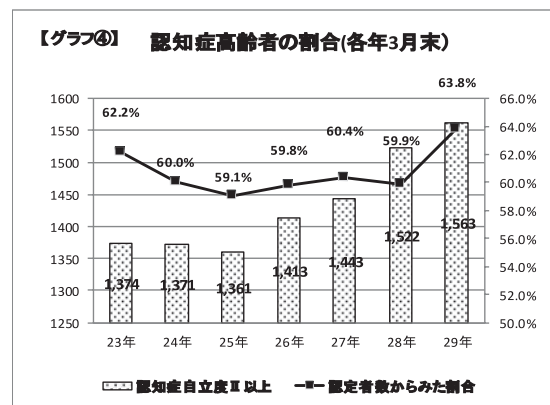
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 56	民児協 : 2	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 1
病院 : 0	医科診療所 : 15	歯科診療所 : 14	小学校 : 3	中学校 : 1
S 型デイサービス : 3	特別養護老人ホーム : 0	有料老人ホーム : 0	地域包括支援センター : 1	

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 2
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 1	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 5

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,000 人と、ほぼ圏域平均となっており、1 人当たり費用額（148,655 円）は、市平均（145,326 円）よりもわずかに高い。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（17.8%）は、市平均（18.5%）よりも若干低くなっている。
- ・施設利用率は若干低いものの、施設利用者の重度率は若干高くなっている。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（119,195 円）は、市平均（114,154 円）よりもわずかに高くなっている。

⇒ 施設利用率が若干低めであったため、在宅で重度を支えていると思われる。

<地域の課題>

- ・集合住宅等で独居の方が多地域では、認知症、加齢や病気、廃用などの理由から、孤立につながりやすいため、地域における相談機能を強化していくことが課題となっている。
- ・集いの場や居場所があるが、周知が進まず利用率が低いため、高齢者が安心して生活できる地域づくりについての啓発活動を促進し、地域の資源を積極的に利用できるよう働きかけが必要となる。
- ・高齢者を取り巻く問題に早期発見、対応できるよう各機関がより一層の連携を図り、地域全体で取り組む気運を醸成する。

葵-2 安西番町

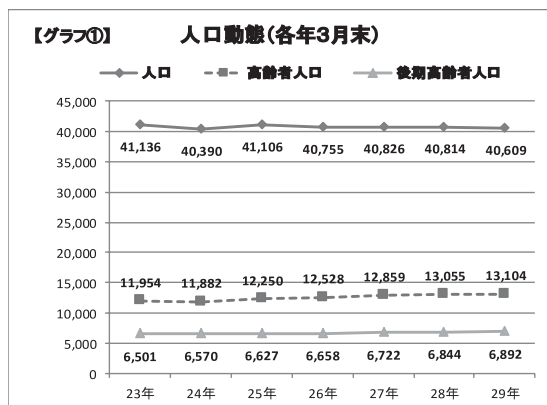
共通事項

葵区安西番町圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	18,719人	65歳以上人口	6,143人	高齢化率	32.81%
世帯数	8,714世帯	75歳以上人口	3,234人	後期高齢化率	17.27%
主な小学校区	安西小、番町小		保健福祉センター	城東	

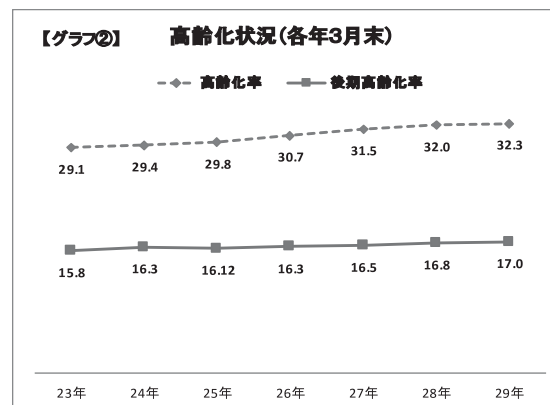
地理的状況	静岡市の中心部やや北側の地域で、高齢者は6,000人を超えるものの圏域としては、比較的狭い地域である。街並みは古く歴史のある問屋街や職人街でもある。路面バスが充実しており、中心市街地へのアクセスは良好。
地域の現状	平成30年の圏域の分割・見直しにより旧城西圏域から分割された。古くからの問屋街や商店街の名残が街並みに残り、旧家には三世代同居世帯も多い。また、一方で工場跡地の大規模宅地分譲により、郊外の一部地域では若い世代が流入し地域を形成している区域もある。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における城西圏域のデータ

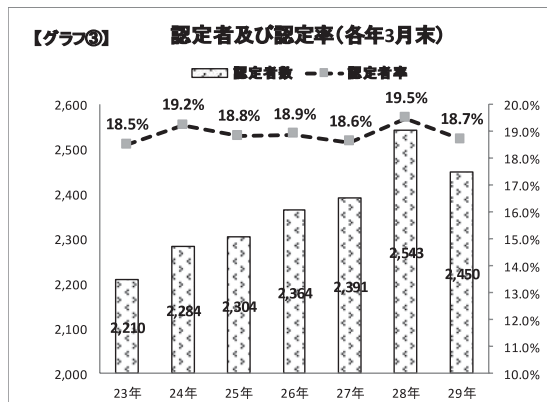
人口推移



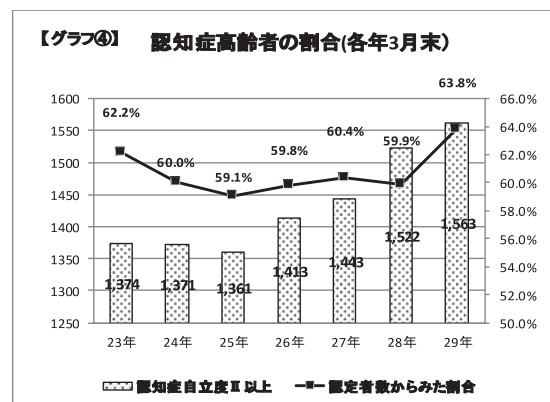
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 42	民児協 : 2	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 0
病院 : 1	医科診療所 : 16	歯科診療所 : 9	小学校 : 2	中学校 : 1
S 型デイサービス : 7	特別養護老人ホーム : 2	老人(在宅)介護支援センター : 1	有料老人ホーム : 3	地域包括支援センター : 1

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 2	認知症対応型共同生活介護 : 3
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 4

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,000 人と、ほぼ圏域平均となっており、1 人当たり費用額（141,098 円）は、市平均（145,326 円）と同水準かわずかに低い。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（16.0%）は、市平均（18.5%）よりも若干低くなっている。
- ・施設利用者に占める重度者の割合や重度者に占める施設利用者の割合は、市平均と比較し同水準か、わずかに低い。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（115,784 円）は、市平均（114,154 円）とほぼ同水準となっている。

⇒ 施設利用率が若干低めであったため、在宅で重度者を支える必要がある。

<地域の課題>

- ・古くからの職人や商人が多いなか、新興住宅地も抱え、特に若い世代においては、自治体加入率も低下していることから、世代間交流する機会を創設し、地域全体で生活を支える基盤づくりが求められる。
- ・介護サービスの給付分析から重度者が、比較的在宅で生活をしている傾向がみられることから、孤立しないよう介護サービスと地域づくりを併用して見守っていく必要がある。
- ・高齢化率も高く、認知症高齢者の増加が懸念されることから、認知症の初期の段階から支援の手が及ぶよう早期の発見や受診の啓発活動等が重要となる。

葵-3 城東

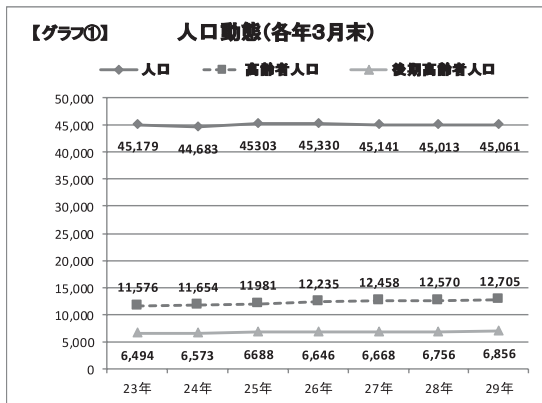
共通事項

葵区城東圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	23,474人	65歳以上人口	6,482人	高齢化率	27.61%
世帯数	10,978世帯	75歳以上人口	3,462人	後期高齢化率	14.74%
主な小学校区	葵小、安東小			保健福祉センター	城東

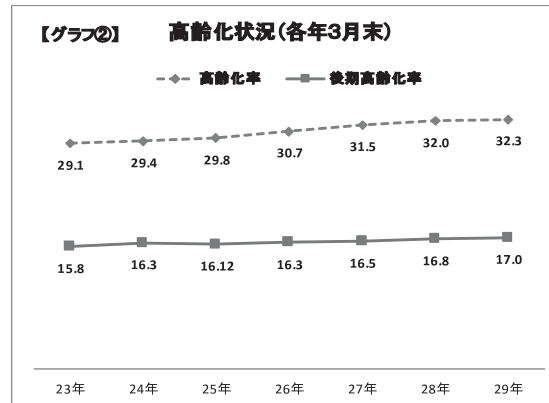
地理的状況	平成 30 年度の圏域の見直しにより、追手町、呉服町等の繁華街を含む地域に再編成された。この繁華街から駿府城公園を含むエリアで、静岡市の中心部を形成する圏域となった。駿府城公園を境に街並みも一変し、片や中心市街地は高層マンションが新築され、一方で安東地区は閑静な住宅街が並んでいる。
地域の現状	中心部は、再開発・マンション建設に伴い、他地区からの人口の流入がある一方で、高層マンション等では住民の生活状況の把握が困難であり、また、地域での見守り等も非常に難しいエリアといえる。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における城東圏域のデータ

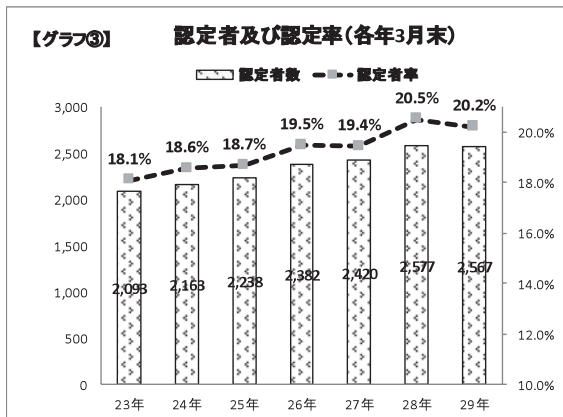
人口推移



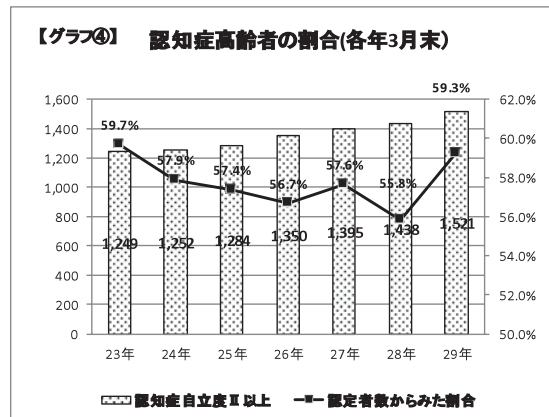
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 62	民児協 : 2	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 1
病院 : 2	医科診療所 : 51	歯科診療所 : 43	小学校 : 2	中学校 : 公 2 私 3
S 型デイサービス : 4	特別養護老人ホーム : 0	有料老人ホーム : 0	地域包括支援センター : 1	

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 0
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 7

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,000 人と、ほぼ圏域平均となっており、1 人当たり費用額（133,350 円）は、市平均（145,326 円）よりも低い。
- ・利用者の要介護度別人数分布では、「重度者」が少なく、「軽度者」が多い圏域となっている。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（11.4%）は、市平均（18.5%）よりも低くなっている。
- ・重度者に占める施設利用率（35.2%）は市平均（49.3%）より低いものの施設利用者に占める重度者の割合（55.6%）は、市平均（57.4%）とほぼ同水準である。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（112,584 円）は、市平均（114,154 円）よりも若干低くなっている。
- ・居住利用割合（11.4%）は、市平均（8.8%）より若干高い。
- ・当該圏域においては、施設利用人数が少なく、1 人当たり在宅費用が低い。

<地域の課題>

- ・子供が遠方に住んでいる等の理由から、独居世帯や高齢者世帯、空き家が増加しているため、それらに対するきめ細かな支援や見守りが必要。
- ・地域包括支援センターへの相談内容から、介護保険制度や家族では対応できない複数課題をもつ高齢者や制度の間で支援が及んでいない高齢者が増加していることから、障害や権利擁護などさまざまな支援体制を連携させていく必要がある。
- ・市の中心市街地では、ビルやマンション等に住む高齢者は、実態の把握が非常に困難であるため、そのような高齢者の方々に地域に出てきていただく取り組みが必要である。

葵-4 伝馬町横内

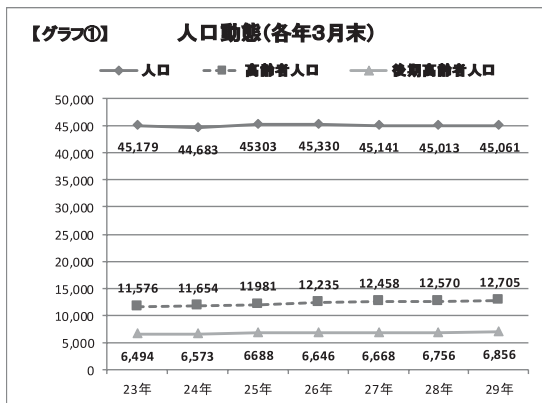
共通事項

葵区伝馬町横内圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	21,526人	65歳以上人口	6,391人	高齢化率	29.68%
世帯数	10,208世帯	75歳以上人口	3,425人	後期高齢化率	15.91%
主な小学校区	伝馬町小、横内小		保健福祉センター	城東	

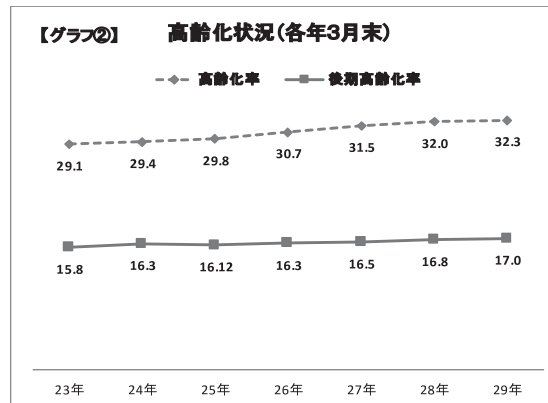
地理的状況	JR 静岡駅、静岡鉄道新静岡駅から沿線上に東に延びる地域で、国道一号線、北街道が東西に走り交通アクセスのよいエリアである。中心市街地の一部をなしており中心部ではマンションの建設が進む地域もある。
地域の現状	城東圏域同様に中心部の再開発・マンション建設に伴い、他地区からの高齢者の流入が増加するものの実態が把握しづらい傾向にあり、地区社協が無いエリアもある。しかし、少し市街地から遠ざかると建築から年月のたった旧家も多く、幹線道路から少し入ると静かな街並みが残る。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における城東圏域のデータ

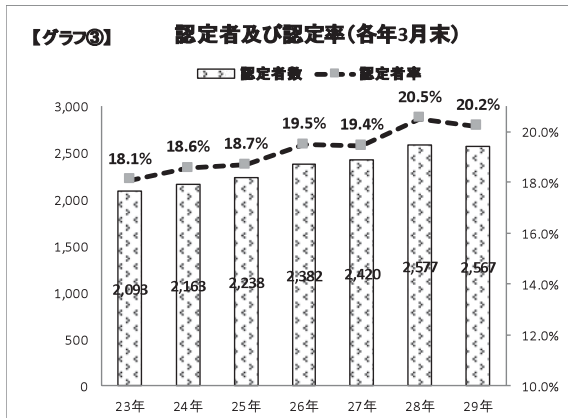
人口推移



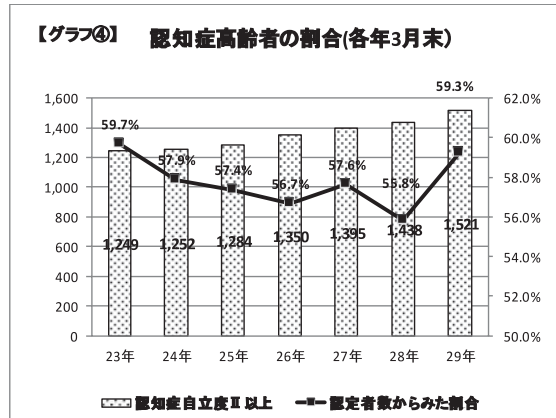
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 33	民児協 : 2	地区社協 : 1	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 0
病院 : 3	医科診療所 : 40	歯科診療所 : 28	小学校 : 2	中学校 : 公 1 私 2
S 型デイサービス : 5	特別養護老人ホーム : 0	有料老人ホーム : 1	介護老人保健施設 : 1	地域包括支援センター : 1

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 1	夜間対応型訪問介護 : 1	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 4
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 7

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,200 人と、ほぼ圏域平均となっており、1 人当たり費用額（136,672 円）は、市平均（145,326 円）よりも低い。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（13.5%）は、市平均（18.5%）よりも低くなっている。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（112,600 円）は、市平均（114,154 円）よりも若干低くなっている。
- ・居住利用割合（11.4%）は、市平均（8.8%）より若干高い。

<地域の課題>

- ・民生委員の欠員地区や、地区社会福祉協議会が未設置の地区が含まれており、これらの地域は高齢者の状況把握が行い難く、支援が遅れるケースもある。これらの地域には積極的に働きかけを実施し、新たな活動を支援する取組が必要である。
- ・地域の祭りや催しなどが盛んであることから、地域支えあいの基盤はもともとある地域で、これらの地域活動を高齢者の見守りや支援に向けるような働きかけが必要となる。
- ・中心市街地から住宅地や集合住宅等、静岡市の中心部に位置する圏域でありながら、地域により住宅の様子から街の成り立ちまでさまざまであることから、柔軟にそれぞれの地区にあった取組の検討が重要である。

葵-5 城北

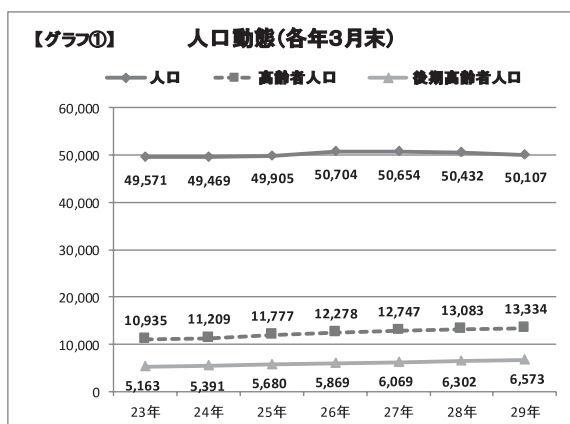
共通事項

葵区域北圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	37,865人	65歳以上人口	10,629人	高齢化率	28.07%
世帯数	16,373世帯	75歳以上人口	5,234人	後期高齢化率	13.82%
主な小学校区	麻機小、城北小、竜南小			保健福祉センター	東部

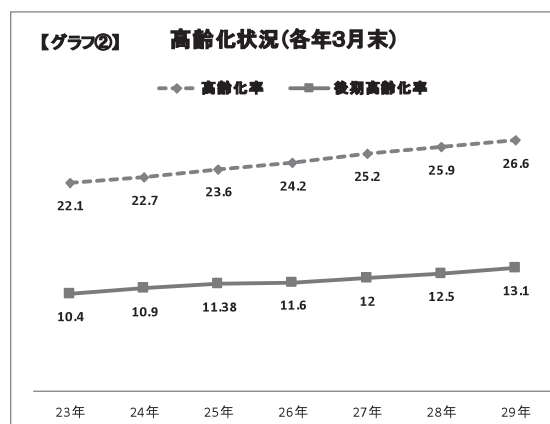
地理的状況	旧静岡市の中心市街地から北側の郊外地域で麻機街道と唐瀬街道が走る。圏域内には調整区域も含み麻機遊水地を囲み緑が残っている。周辺には多く残る地域である。
地域の現状	人口は横ばい、高齢者人口は増加傾向にある。古い住宅地と新興住宅地が混在しており、団地が3か所ある。千代田地区、麻機の県営住宅にはひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯が多い。古くからの公営団地には高齢者が多く居住している。また、郊外エリアで交通の便も良かったためか病院を多数立地している。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における麻機千代田圏域のデータ

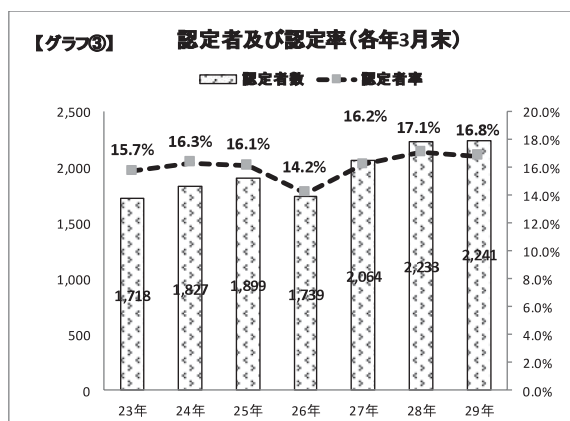
人口推移



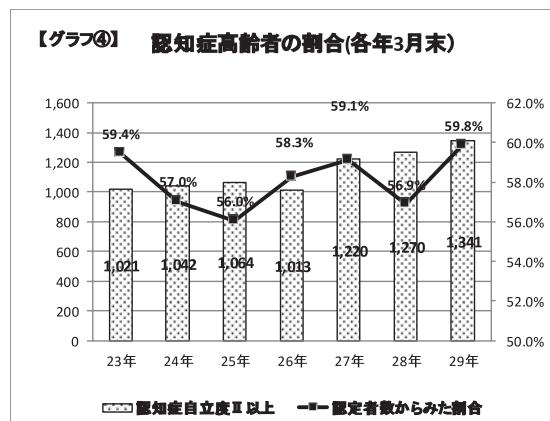
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区をもとにしています

自治会・町内会 : 34	民児協 : 3	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 0
病院 : 4	医科診療所 : 29	歯科診療所 : 17	小学校 : 3	中学校 : 0
S 型デイサービス : 13	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 2	軽費老人ホーム : 1	介護老人保健施設 : 2
地域包括支援センター : 1				

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 1	認知症対応型共同生活介護 : 8
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 8

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,600 人と、比較的利用人数の多い圏域となっており、1 人当たり費用額（132,935 円）は、市平均（145,326 円）よりも低い。
- ・介護サービス利用者の要介護度別の人数分布では、重度者が少なく軽度者が多い圏域となっている。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（15.4%）は、市平均（18.5%）よりも低くなっている。
- ・施設利用者の中では、療養型の利用者割合が最も高い。また、老健の利用者に占める重度者の割合は低く、中間施設としての機能を果たしていることが考えられる。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（105,193 円）は、市平均（114,154 円）よりも低くなっている。
- ・居住利用割合（8.7%）は、市平均（8.8%）と同水準である。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（10.9%）は市平均（13.4%）よりも若干低い。

<地域の課題>

- ・平成 28 年の高齢者実態調査から、同居でありながらも日中独居となる高齢者が多い地域であることから、高齢者の生活のハリをみつける為のきっかけ作りや居場所づくり等のニーズはあると思われる。
- ・比較的前期高齢者が多い圏域で、高齢の夫婦二人暮らしの割合が高いことから、この方々が後期高齢者となり独居高齢者となる前に、見守り体制等を構築することが重要。
- ・介護サービス利用者の要介護度別の人数分布では、軽度者が多い圏域であることから、重度化防止のための介護予防の取り組みがより効果を発揮しやすい状況である。

葵-6 千代田

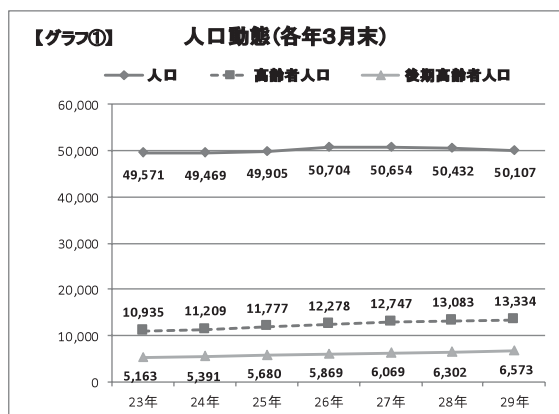
共通事項

葵区千代田圏域				平成29年3月末現在	
人口	30,462人	65歳以上人口	7,698人	高齢化率	25.27%
世帯数	13,564世帯	75歳以上人口	3,871人	後期高齢化率	12.71%
主な小学校区	千代田小、千代田東小		保健福祉センター	東部	

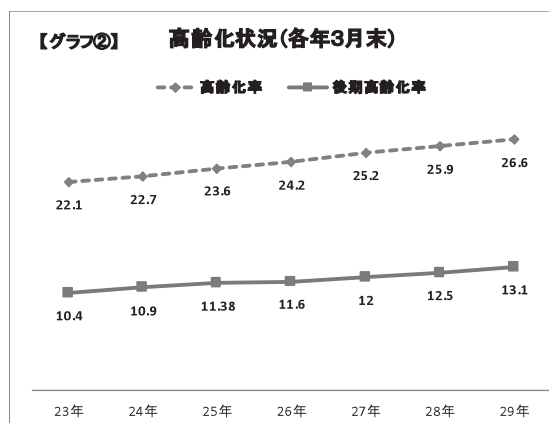
地理的状況	平成30年度の圏域の見直しにより、千代田地区と千代田東地区を統合してできた圏域。 圏域の南側を東西に国道一号線が走り、中心を南北に流通通りが通って圏域を分断している。 幹線道路が整備され交通の利便性はよい。
地域の現状	圏域の南端にはJR東静岡駅があり駅の北側は、区画整理により大規模マンションや商業施設が建設され新しい街を形成している。しかし、千代田地区には閑静な住宅街がならび東千代田地区では急速に農地から宅地開発が進められており、圏域内にさまざまな面を合わせもっている。

※グラフは、平成29年3月31日における麻機千代田圏域のデータ

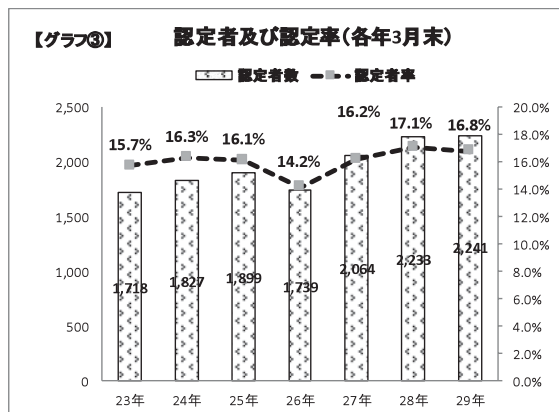
人口推移



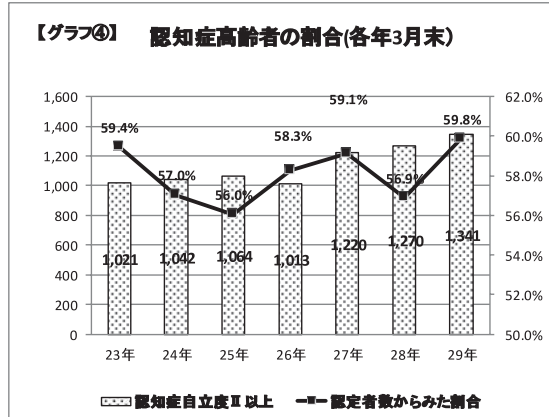
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



【地域資源】

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区をもとにしています

自治会・町内会	: 27	民児協	: 2	地区社協	: 2	交番・駐在所	: 1	生涯学習施設	: 1
病院	: 1	医科診療所	: 24	歯科診療所	: 16	小学校	: 2	中学校	: 1
S 型デイサービス	: 5	特別養護老人ホーム	: 1	有料老人ホーム	: 2	地域包括支援センター	: 1		

【地域密着型サービス事業所数】

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護	: 1	夜間対応型訪問介護	: 1	認知症対応型通所介護	: 2
小規模多機能型居宅介護	: 2	看護小規模多機能型居宅介護	: 0	認知症対応型共同生活介護	: 5
地域密着型特定施設入居者生活介護	: 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	: 0	地域密着型通所介護	: 5

【地域特性】**<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>**

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 1,100 人と、圏域平均的な利用人数となっており、1 人当たり費用額（142,856 円）は、市平均（145,326 円）とほぼ同水準である。

(施設利用)

- ・利用者全体に占める施設の利用率（16.9%）は、市平均（18.5%）よりも若干低くなっている。

(在宅利用)

- ・1 人当たり在宅費用額（112,954 円）は、市平均（114,154 円）とほぼ同水準である。
- ・居住利用割合（10.3%）は、市平均（8.8%）よりわずかに高い。

<地域の課題>

- ・圏域の見直しにより新たに二つの異なる圏域から分割された 2 地区で成り立っていることから、それぞれの支援体制、地域の連携、介護事業者や専門職の連携等の再構築が必要となる。また、地域包括支援センターなど相談機関の周知活動等を積極的に実施し、相談体制を整える必要がある。
- ・市営・県営団地では、高齢者の独り住まいや経済的に困窮している高齢者が増加しており、また、エレベーターがないなどの設備面からも高齢者が閉じこもりがちになる傾向がある。このような集合住宅では、住民主体の見守り体制の構築が急務である。
- ・幹線道路やバイパスも走っており、圏域内は、特に日中の自動車の交通量が非常に多い特徴がある。高齢者の交通被害の予防や認知症高齢者の徘徊等の危険に対し、啓発をしていく必要がある。

葵-7 長尾川

共通事項

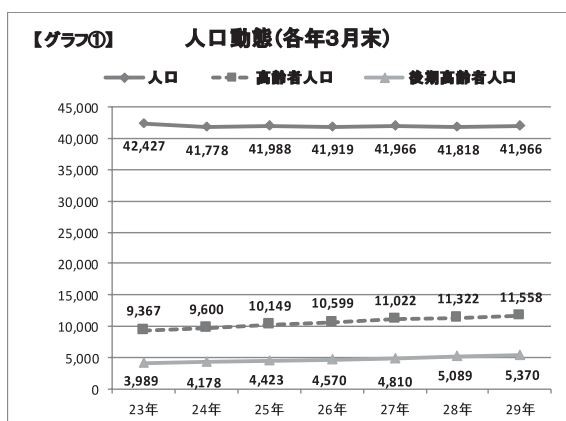
葵区長尾川圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	27,893人	65歳以上人口	7,561人	高齢化率	27.11%
世帯数	12,038世帯	75歳以上人口	3,391人	後期高齢化率	12.16%
主な小学校区	北沼上小、西奈小、西奈南小			保健福祉センター	東部

地理的状況
北街道付近より北側で東は清水区と接し、北は長尾川上流の中山間地と南北に広い地域である。近年、バイパスや北街道の整備に伴い農村地域から、急速に都市開発が進み、店舗や診療所、歯科なども増加している。

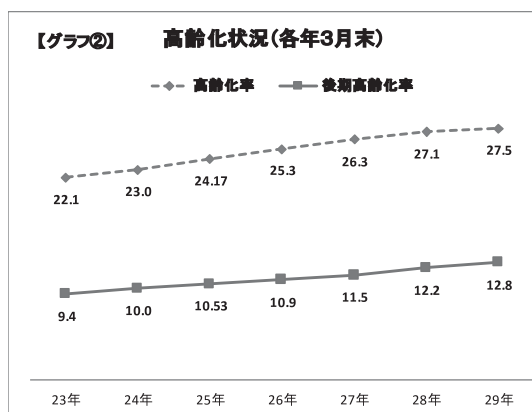
地域の現状
25年ほど前から新興住宅地が増えた地区が多く、一定程度、長期に居住している住民が増えている。しかし、自治会加入率の低下など、地域活動が以前に比べ低調に推移している地域がある。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における長尾川圏域のデータ

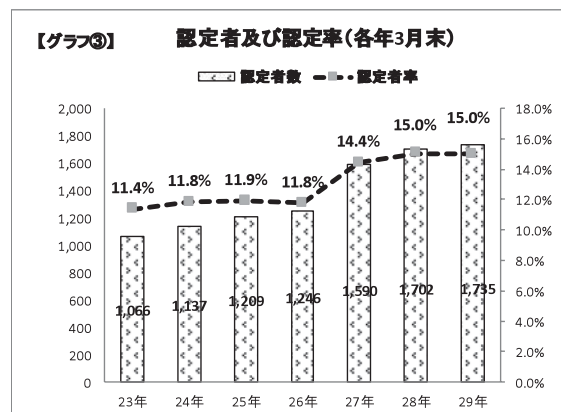
人口推移



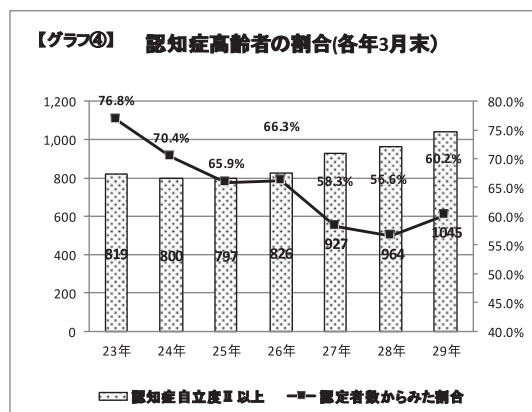
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



【地域資源】

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 31	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 1
病院 : 1	医科診療所 : 12	歯科診療所 : 9	小学校 : 公 3 私 1	中学校 : 公 2 私 2
S 型デイサービス : 6	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 1	軽費老人ホーム : 1	老人福祉センター : 1
介護老人保健施設 : 1	介護療養型医療施設 : 1	地域包括支援センター : 1		

【地域密着型サービス事業所数】

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 2	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 4
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 3

【地域特性】**（地域特性）**

- ・介護サービスの利用人数は約 1,000 人弱と、圏域平均的な利用人数となっている。
- ・1 人当たり費用額（144,654 円）は、市平均（145,326 円）とほぼ同水準である。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（19.5%）は、市平均（18.5%）よりもわずかに高くなっている。
- ・施設利用者に占める施設種別利用割合は、療養型の利用者割合が高い。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（109,282 円）は、市平均（114,154 円）とほぼ同水準である。
- ・居住利用割合（5.7%）は、市平均（8.8%）より低い。

<地域の課題>

- ・平成 28 年の高齢者実態調査から、趣味がある高齢者や週 5 回以上出かける高齢者の割合が高いことから、元気な高齢者が、地域づくりに参画していただけるよう啓発することが必要。
- ・平成 28 年の高齢者実態調査から、独居高齢者の割合が高いことから、高齢者が孤立化しないよう居場所づくりや見守り体制の構築が求められる。
- ・新興住宅地も多数抱え、特に若い世代においては、自治体加入率も低下していることから、若い世代にも地域包括ケアを啓発し、地域全体で生活を支える基盤づくりが求められる。

葵-8 美和

共通事項

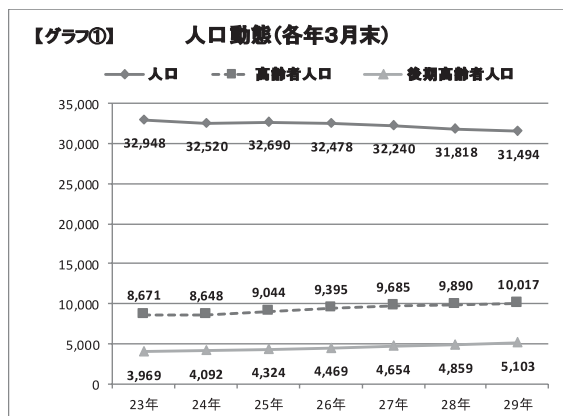
葵区美和圏域				平成29年3月末現在	
人口	11,979人	65歳以上人口	4,587人	高齢化率	38.29%
世帯数	5,218世帯	75歳以上人口	2,173人	後期高齢化率	18.14%
主な小学校区	安倍口小、美和小、足久保小			保健福祉センター	北部

地理的状況
平成30年の圏域見直しにより、静岡市の北側、安倍川の西岸の地域のみを圏域となった。
圏域内を走る美和街道を中心に住宅街を形成しており、過去には開発による住宅団地の整備が進められた。

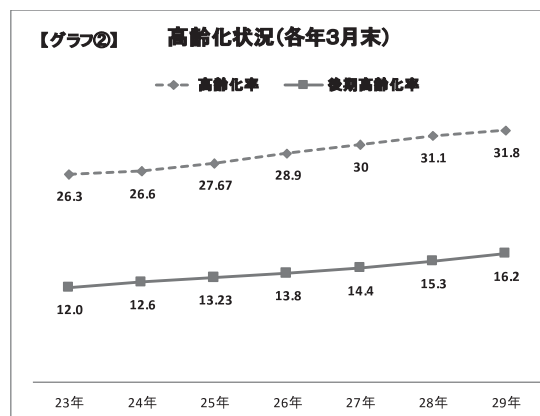
地域の現状
圏域内の小学校が統合され、小中学校となるなど、圏域の人口が減少傾向にある。
圏域の大部分は調整区域で開発行為も一段落し、新しく移り住む方も少なく高齢化率は38%と非常に高くなっている。

※グラフは、平成29年3月31日における美和圏域のデータ

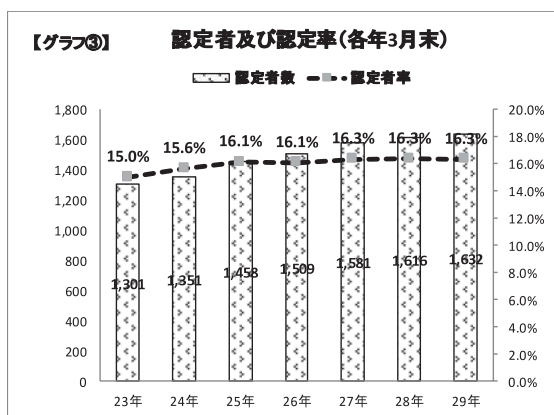
人口推移



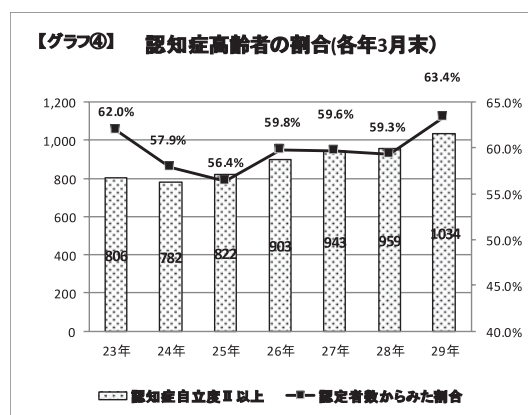
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 21	民児協 : 2	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 1
病院 : 0	医科診療所 : 9	歯科診療所 : 3	小学校 : 3	中学校 : 1
S 型デイサービス : 4	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 0	軽費老人ホーム : 2	介護老人保健施設 : 1
地域包括支援センター : 1				

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 2
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 1	地域密着型通所介護 : 0

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 600 人と、圏域平均よりも少ない利用人数である。
- ・1 人当たり費用額（141,967 円）は、市平均（145,326 円）とほぼ同水準である。
- ・介護サービス利用者の要介護度別の人数分布はほぼ市平均的であるが、「寝たきり」の人数割合が高い。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（21.9%）は、市平均（18.5%）よりも高くなっている。
- ・特に、特養と療養型については、利用者に占める重度者の割合がかなり高い。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（102,706 円）は、市平均（114,154 円）より若干低い。
- ・居住利用割合（7.5%）は、市平均（8.8%）よりわずかに低い。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（11.3%）が市平均（13.4%）よりも低い。

<地域の課題>

- ・圏域内に、山間地～公営住宅～住宅地と地域環境の違いが大きい地域が含まれ、地区社協や自治会等の地区活動に差が出てきているため、好事例を他地域に広げていく活動が必要。
- ・高齢化が進み、独居や夫婦二人暮らしの高齢者のみ世帯の増加に加え、認知症・精神・身体障害を持つケースや、親族がなく支援に苦慮するケース、経済的な問題を抱えているケースなど、複合的な課題をあわせ持つ高齢者が増加している。
- ・平成 28 年の実態調査から、地域活動に参加したくないと回答した高齢者の割合が高い。介護予防等を通じた社会参加の必要性について啓発をしていく。

葵-9 賤機

葵区賤機圏域

平成 29 年 3 月末現在

人口	30,083人	65歳以上人口	8,281人	高齢化率	27.53%
世帯数	12,730世帯	75歳以上人口	4,200人	後期高齢化率	13.96%
主な小学校区	井宮小、井宮北小、賤機南小			保健福祉センター	北部

地理的状況

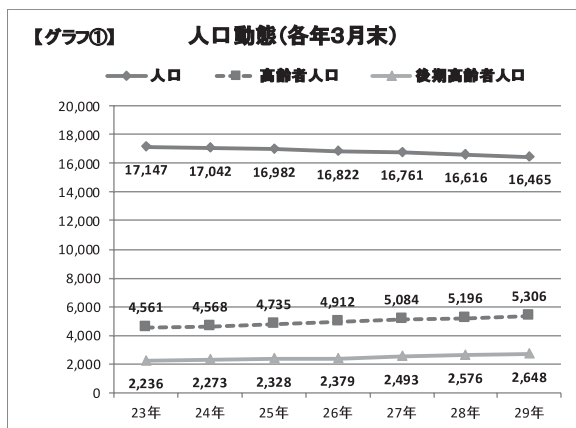
平成30年の圏域見直しにより、静岡市の北側、安倍川の東岸と賤機山の間地域となった。
圏域内を走る美和街道や安倍街道を中心に住宅街を形成しており、圏域内には小売り店舗や飲食店などの商業施設も点在しており利便性も良い。

地域の現状

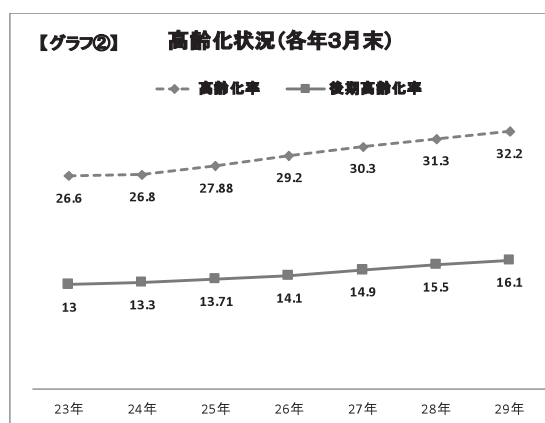
圏域の広くは一般的な住宅街と言えるが、団地や公営住宅を多く抱えており、ここには一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増加しており、見守り体制の構築が必要。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における賤機圏域のデータ

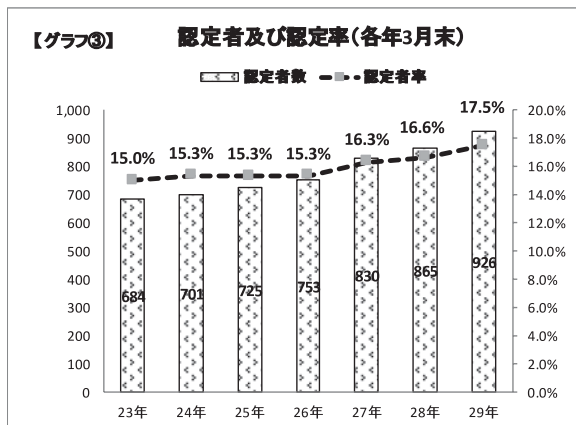
人口推移



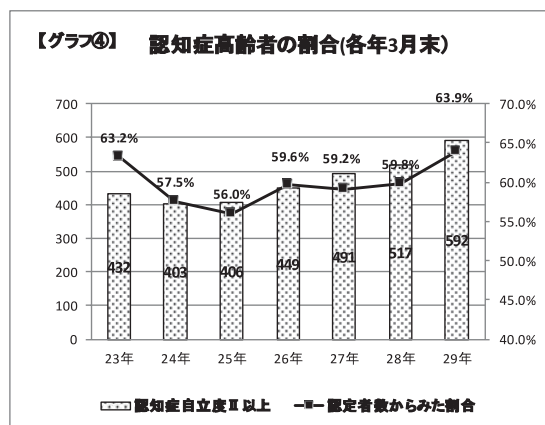
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 19	民児協 : 2	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 1
病院 : 1	医科診療所 : 11	歯科診療所 : 10	小学校 : 3	中学校 : 2
S 型デイサービス : 6	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 4	老人福祉センター : 1	介護老人保健施設 : 2
地域包括支援センター : 1				

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 3	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 7
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 2

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1200 人と、圏域平均と比べてやや多い利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（143,126 円）は、市平均（145,326 円）とほぼ同水準である。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（17.1%）は、市平均（18.5%）よりもわずかに低くなっている。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（112,984 円）は、市平均（114,154 円）と同水準かわずかに低い。
- ・居住利用割合（8.9%）は、市平均（8.8%）と同水準である。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（13.4%）は市平均（13.4%）と同水準である。

<地域の課題>

- ・地域には S 型デイサービスの無い地域もあり、サロンなど高齢者の社会参加の拠点となるような活動を支援していく必要がある。
- ・団地などの公営住宅を抱える地域では、独居高齢者の孤立化や経済的困窮を抱える高齢者が増加している。また、これらの高齢者は支援を拒む方もいるため、公的サービスを拒否傾向がある方にとっては、地域住民の方同士の見守り等がより重要である。
- ・このような地域活動の下支えとなる新たな地域人材の発掘やボランティアの養成等を積極的に実施し、継続して支援体制が保たれるようバックアップをしていく必要がある。

葵-10 安倍

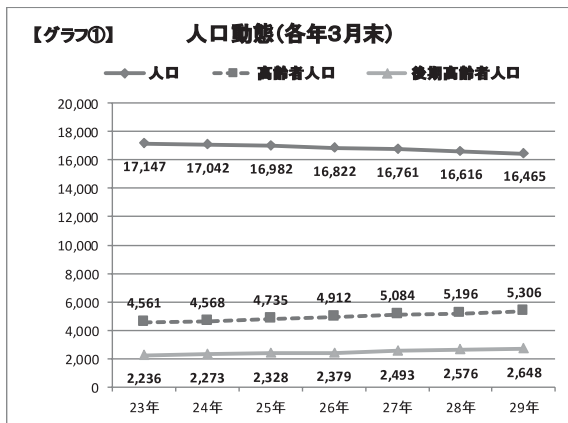
共通事項

葵区安倍圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	5,897人	65歳以上人口	2,455人	高齢化率	41.63%
世帯数	2,416世帯	75歳以上人口	1,378人	後期高齢化率	23.37%
主な小学校区	賤機中小、賤機北小、松野小、玉川小、 大河内小(中)、梅ヶ島小(中)			保健福祉センター	北部

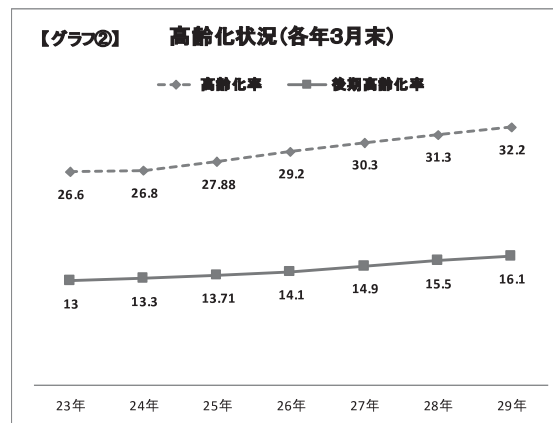
地理的状況	平成 30 年の圏域見直しにより、山間部も含め賤機中地区から北側一帯（井川を除く）の圏域となった。 南側は安倍街道沿いに住宅が残るが、北上すると集落が点在している地域となり高齢化も進展している。
地域の現状	南側は新東名や静岡バイパスがあり、市街地までの交通の便も良いが、北上するに従い、バスの本数が少なく、自家用車なしでの生活は困難。山間部の集落では、地域の半数以上が独居高齢者で数日間、誰とも話をしないで過ごすことがあるという集落がある。介護資源は豊富とは言えず、地域の声掛けや助け合いが重要となる。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における賤機圏域のデータ

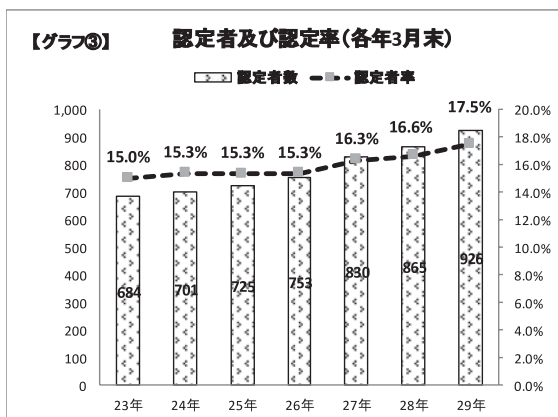
人口推移



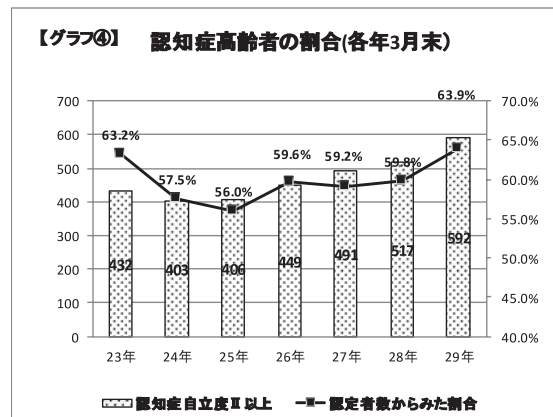
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 50	民児協 : 1	地区社協 : 6	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 3
病院 : 0	医科診療所 : 4	歯科診療所 : 0	小・小中学校 : 4・2	中学校 : 1
S 型デイサービス : 6	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 0	高齢者生活福祉センター (生活支援ハウス含む) : 1	地域包括支援センター : 1

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点 (指定見込み数含む)

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 2
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 1
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 1	地域密着型通所介護 : 2

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 400 人と、比較的利用人数が少ない圏域である。
- ・1 人当たり費用額 (154,589 円) は、市平均 (145,326 円) よりも若干高い。
- ・要介護度別の介護サービス利用者は、「重度者」の割合が高い。

(施設利用)

- ・利用者全体に占める施設の利用率 (27.5%) は、市平均 (18.5%) よりも高くなっている。

(在宅利用)

- ・1 人当たり在宅費用額 (104,185 円) は、市平均 (114,154 円) よりわずかに低い。
- ・居住利用割合 (6.3%) は、市平均 (8.8%) よりわずかに低い。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合 (12.5%) は市平均 (13.4%) よりわずかに低い。

<地域の課題>

- ・特に山間地において交通手段が少ないのに対し、外出、受診、買い物等の支援が不十分である。交通手段も少なく、自家用車がなければ生活が困難になるため、近年では、運転の能力に不安があっても、高齢者がなかなか免許を返納できないという問題が発生している。
- ・通所サービスの利用日数が少なく、高齢者の運動や交流の機会が十分に提供されていないおそれがある。
要因として、山間地のデイサービスは数が少なく、選択肢が限られていることや、利用できる日が限られている等があげられる。
- ・フォーマルなサービスが限られていることから、より一層の地域や家族の支えが必要となる。

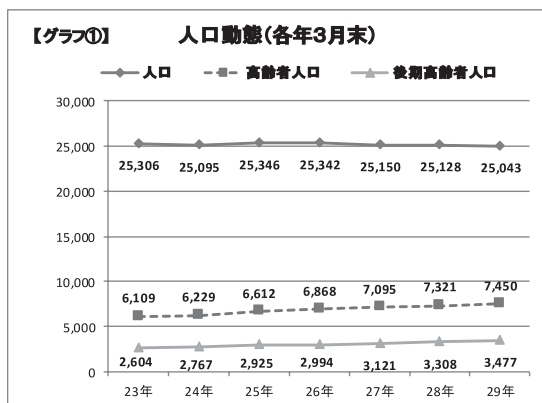
葵-11 服織

共通事項

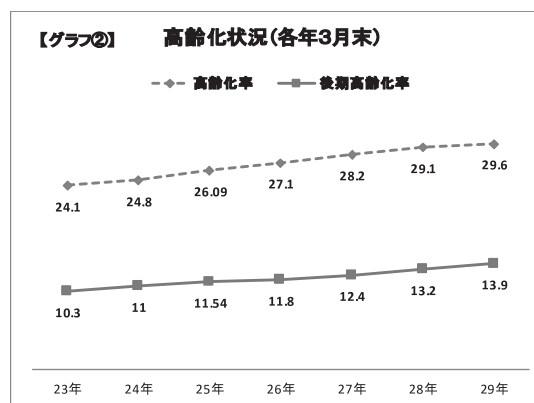
葵区服織圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	25,043人	65歳以上人口	7,450人	高齢化率	29.75%
世帯数	10,504世帯	75歳以上人口	3,477人	後期高齢化率	13.88%
主な小学校区	服織小、服織西小、南藁科小			保健福祉センター	藁科

地理的状況	藁科側の下流に位置し、住宅地と農村地が混在している。国道 362 号線沿いは交通の便が良く、学校や公共機関、金融機関、商店、開業医など充実していて生活には困らない。国道から離れると、交通の便が悪く、自家用車がないと高齢者は外出が困難となる。
地域の現状	服織地域は、新興住宅の造成が進み、子育て世代の流入が見られ、人口も増加している。服織西地域は、人口が減少傾向にあるが、家族との同居率が高い。南藁科地域は、人口が減少している。

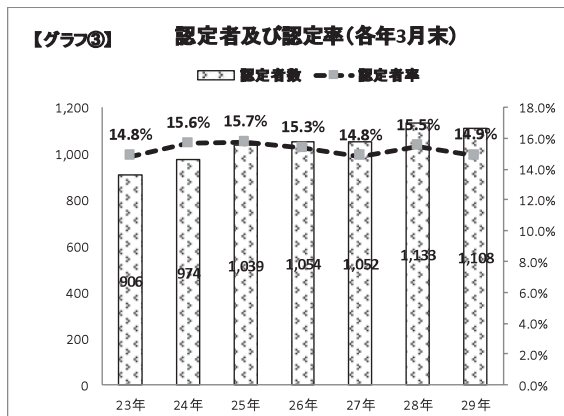
人口推移



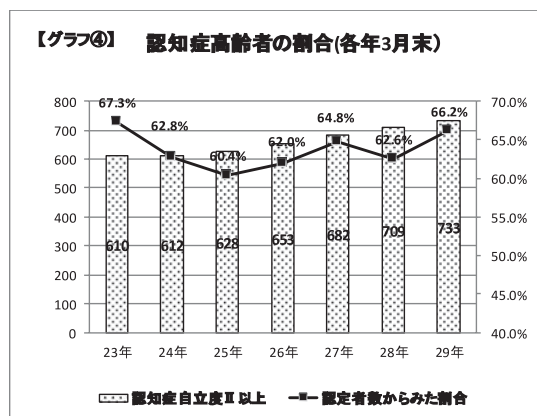
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源 ※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 20	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 1
病院 : 1	医科診療所 : 14	歯科診療所 : 4	小学校 : 3	中学校 : 1
S 型デイサービス : 6	特別養護老人ホーム : 3	有料老人ホーム : 4	養護老人ホーム : 1	介護老人保健施設 : 1
地域包括支援センター : 1				

地域密着型サービス事業所数 ※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 2	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 4
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 1	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 1	地域密着型通所介護 : 4

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,000 人と、利用人数は平均的な圏域である。
- ・1 人当たり費用額（146,680 円）は、市平均（145,326 円）と同水準である。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（19.6%）は、市平均（18.5%）とほぼ同水準である。
- ・施設サービス利用者の内、特養利用者が多く、老健利用者は少ない。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（116,604 円）は、市平均（114,154 円）とほぼ同水準である。
- ・居住利用割合（6.3%）は、市平均（8.8%）よりわずかに低い。
- ・居住を除く 1 人当たり在宅費用額（104,372 円）は、市平均（97,729 円）よりも高い。

<地域の課題>

- ・山間地へつながる農村部と新興住宅地が混在している地域で、国道沿いは生活の利便性が高いが、国道から離れると交通の便が悪く、高齢者の外出も不便である。
- ・住民同士のたすけあいの会やしそ〜かでん伝体操の自主グループ活動などが活発な地域がある一方で、新たな取り組みに消極的な地域もあり、住民の活動や意識の格差が大きい。
- ・子育て世代の流入はあるが、家族や地域との関係がやや希薄となり、高齢者が孤立化し、アプローチや実態把握が難しいケースも増えている。

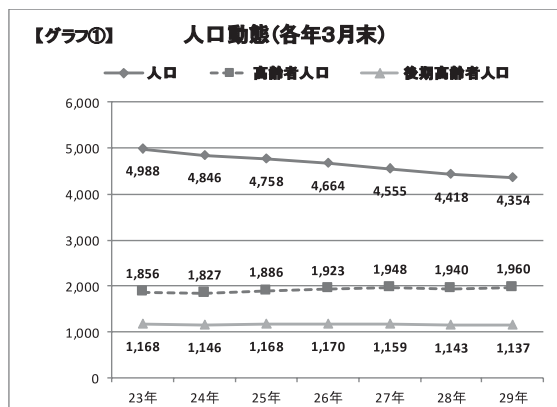
葵-12 藁科

共通事項

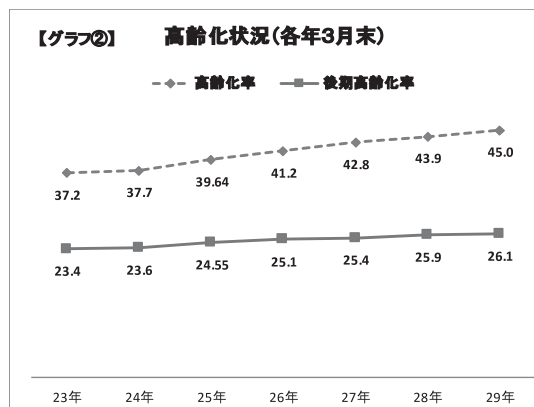
藁区藁科圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	4,354人	65歳以上人口	1,960人	高齢化率	45.0%
世帯数	1,916世帯	75歳以上人口	1,137人	後期高齢化率	26.1%
主な小学校区	中藁科小、水見色小、清沢小、峰山小、大川小(中)			保健福祉センター	藁科

地理的状況	藁科川中上流域およびその支流域に位置し、大部分が山林の中山間地域である。平地は少なく、谷や山を隔ていくつかの集落が点在する。生活道路としての公道は狭く急な坂道が多い。自然災害や事故等による分断・孤立の恐れがある。
地域の現状	高齢者世帯や独居高齢者が増え、少子化・過疎化が進んでいる。公共バスは多くの集落にまでは達しておらず、自家用車に頼らざるを得ない。地縁・血縁の結びつきは強く、お互い助け合って生活している。

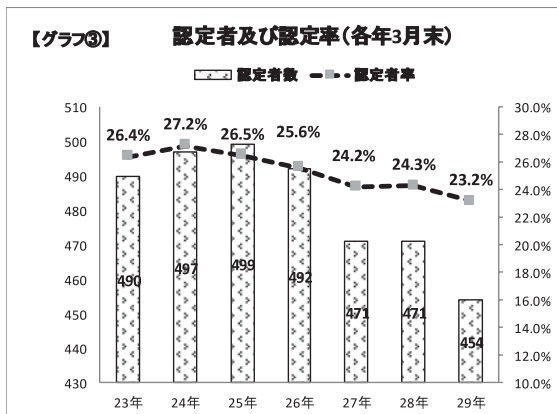
人口推移



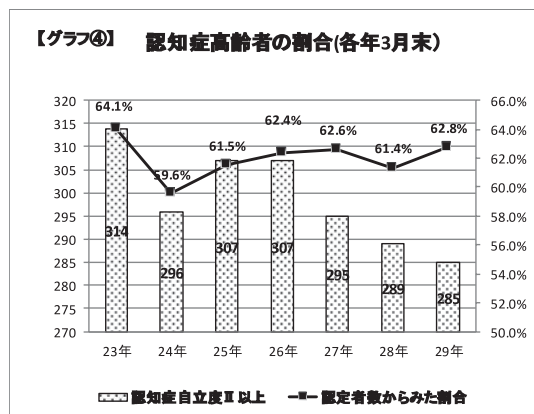
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 28	民児協 : 2	地区社協 : 4	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 2
病院 : 2	医科診療所 : 3	歯科診療所 : 2	小・小中学校 : 公 4・1	中学校 : 1
S 型デイサービス : 8	特別養護老人ホーム : 2	有料老人ホーム : 0	軽費老人ホーム : 1	高齢者生活福祉センター (生活支援ハウス含む) : 1
地域包括支援センター : 1				

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点 (指定見込み数含む)

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 1
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 2

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 400 人と、比較的利用人数が少ない圏域である。
- ・1 人当たり費用額 (148,705 円) は、市平均 (145,326 円) と同水準か、わずかに高い。
- ・介護サービス利用者の内、「軽度者」の割合が高い。

(施設利用)

- ・利用者全体に占める施設の利用率 (35.5%) は、市平均 (18.5%) よりもかなり高くなっている。
- ・重度者に占める施設利用割合も非常に高く、在宅には重度者が少ない。

(在宅利用)

- ・1 人当たり在宅費用額 (83,013 円) は、市平均 (114,154 円) より低い。
- ・在宅種類別の利用率では、「短期入所」で高く、「訪問介護」、「訪問看護」、「通所リハ」などで低くなっており、比較的施設志向が高く在宅サービスの基盤が不足している。
- ・「軽度者」が多いことなどから、介護予防等をテーマとした地域包括ケアの推進と要介護状態の悪化に伴う在宅基盤の強化が課題である。

<地域の課題>

- ・地理的な問題やバスの本数が少ないことから、買い物や、病院等受診時の移動手段が不足している。交通手段も少なく、自家用車がなければ生活が困難になるため、運転の能力に不安があっても、近年では、高齢者がなかなか免許を返納できないという新たな問題も発生している。
- ・圏域に医療・介護サービスが少なく利用できるサービスが限られてしまうため、地域での取組がより重要となる。
- ・人口減少、高齢化が進み独居や高齢者世帯が増加、空き家も増えている。また、地域で支える側も高齢化しており課題となっている。

葵-13 井川

葵区井川圏域

平成 29 年 3 月末現在

人口	498人	65歳以上人口	288人	高齢化率	57.83%
世帯数	304世帯	75歳以上人口	207人	後期高齢化率	41.57%
主な小学校区	井川小(中)			保健福祉センター	北部

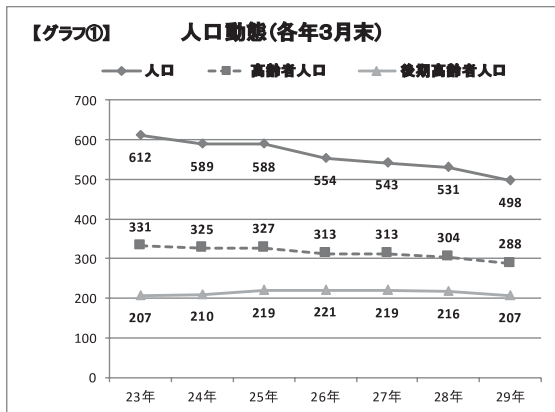
地理的状況

市街地から約60km離れている。冬は雪が降り、道路が凍結することもある。若年世代の都市部への流出により、過疎化が進んでいる。

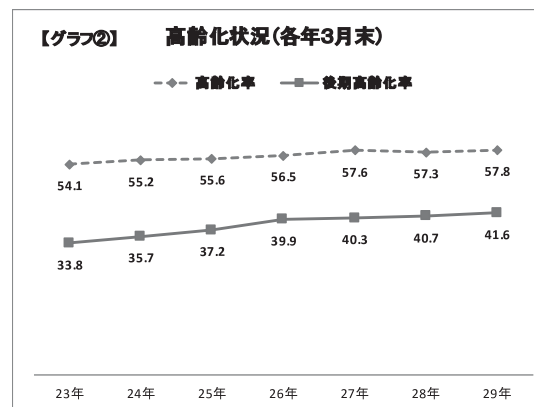
地域の現状

高齢化率が57%であり、後期高齢化率も40%を超えた。ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯が多い一方、高齢になっても畑仕事をして身体を動かしている方も多い。社会サービス資源が乏しく、緊急時の対応、通院、買い物に不便である。

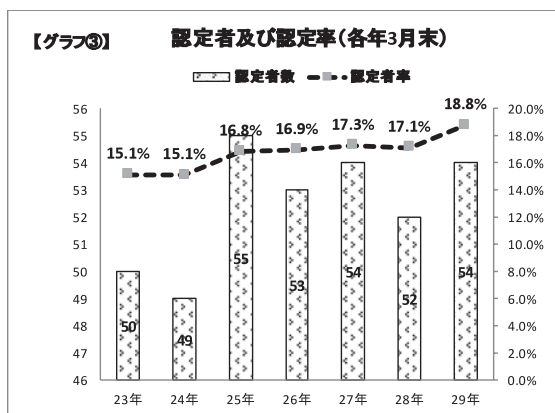
人口推移



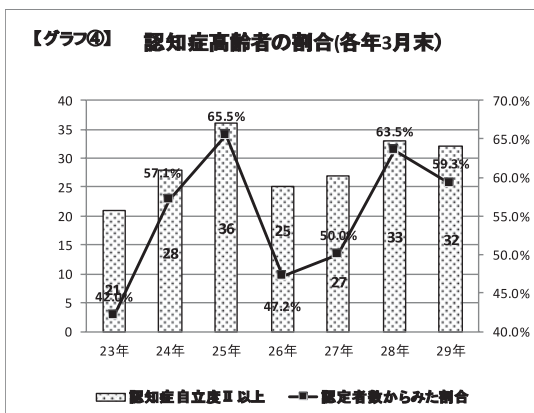
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源 ※平成 29 年 4 月末時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 16	民児協 : 1	地区社協 : 1	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 2
病院 : 0	医科診療所 : 1	歯科診療所 : 0	小中学校 : 1	—
S 型デイサービス : 1	特別養護老人ホーム : 0	有料老人ホーム : 0	高齢者生活福祉センター (生活支援ハウス含む) : 1	地域包括支援センター (井川窓口) : 1

地域密着型サービス事業所数 ※平成 30 年 3 月末時点 (指定見込み数含む)

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 0
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 0

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 40 人と、極めて少ない利用人数になっており、1 人当たり費用額 (156,446 円) は、市平均 (145,326 円) よりも高い。
- ・介護サービス利用者の要介護度別の人数分布では、「軽度者」が少なく、「中度者」が多い。

(施設利用)

- ・利用者全体に占める施設の利用率 (30.2%) は、市平均 (18.5%) よりもかなり高い。
- ・施設種類別には、老健、療養型といった医療系の利用が高いため、1 人当たり施設費用額も相対的に高くなっている。

(在宅利用)

- ・1 人当たり在宅費用額 (82,766 円) は、市平均 (114,154 円) よりもかなり低くなっている。
- ・重度者が施設を利用することによって、在宅利用者に占める重度者の割合 (10.0%) と市平均 (13.4%) よりも低くなっていることが要因の 1 つであると思われる。
- ・さらに、居住利用割合 (2.3%) は、市平均 (8.8%) より低いことも要因である。

<地域の課題>

- ・高齢化率が非常に高く、在宅生活を支える社会資源が少ないため、要介護度が高い高齢者については、在宅生活が困難。
- ・見守りが必要な独居の方などに対し、民生委員や地区社会福祉協議会などの見守る人も少なく、対象者の状況把握が十分に行えず重度化してから支援につながるケースがある。
- ・今後、高齢者となる 50 代の方々に、生活習慣病や低栄養状態がみられるため、資源が限られている地域だからこそ生活習慣病予防や介護予防への取組を若年齢化していく必要がある。

駿河ー1 小鹿豊田

駿河区小鹿豊田圏域

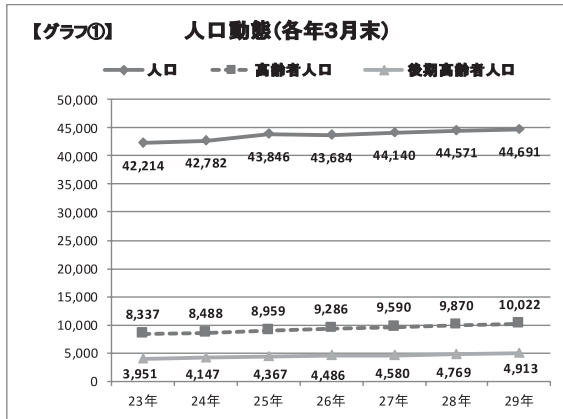
平成 29 年 3 月末現在

人口	44,691人	65歳以上人口	10,022人	高齢化率	22.43%
世帯数	21,025世帯	75歳以上人口	4,913人	後期高齢化率	10.99%
主な小学校区	東豊田小、西豊田小、東源台小			保健福祉センター	南部

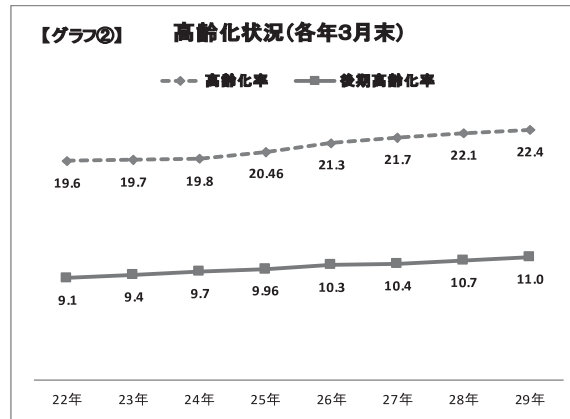
地理的状況
北端を国道1号線が東西に走り、葵区と接する。東端は清水区と接し、圏域の東南部に丘陵地帯がある。圏域内を横切る南幹線、SBS 通りは駿河区～清水区間を結び交通量が多い。西から東に行くほど、交通の便が悪く、動物園・運動場もあるため休日は交通量が多くなる。

地域の現状
東静岡周辺では、区画整理や多数のマンション建設により、幅広い年齢層が居住している。市平均と比べ、高齢化率は低い圏域であるが、20～30年目の分譲団地に住む住民が高齢化し、高齢者世帯が増加している。

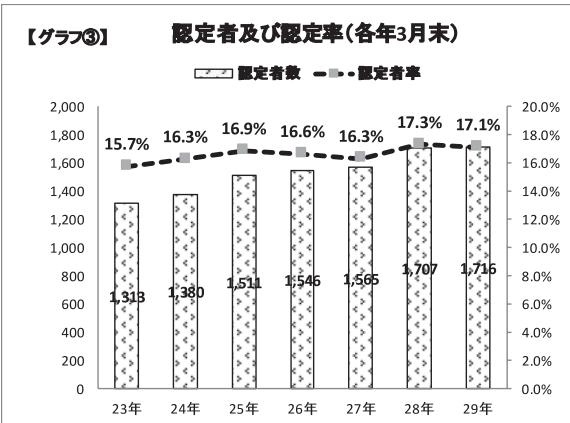
人口推移



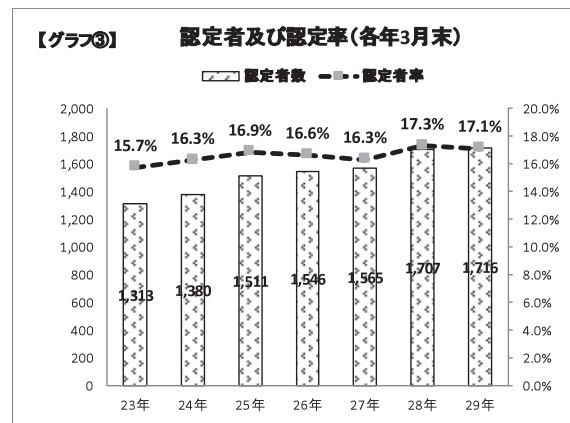
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 42	民児協 : 3	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 2
病院 : 3	医科診療所 : 40	歯科診療所 : 22	小学校 : 3	中学校 : 公 2 私 1
S 型デイサービス : 10	特別養護老人ホーム : 3	有料老人ホーム : 1	軽費老人ホーム : 1	老人福祉センター : 1
介護老人保健施設 : 1	地域包括支援センター : 1			

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 1	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 2
小規模多機能型居宅介護 : 3	看護小規模多機能型居宅介護 : 1	認知症対応型共同生活介護 : 6
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 9

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,400 人と、比較的用人数が多い圏域である。
- ・1 人当たり費用額（143,305 円）は、市平均（145,326 円）とほぼ同水準である。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（18.9%）は、市平均（18.5%）と同水準である。
- ・要介護度別利用者と施設・在宅利用の関係も、市平均的である。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（113,263 円）は、市平均（114,154 円）とほぼ同水準である。
- ・居住系の利用率（9.1%）も市平均（8.8%）と同水準である。
- ・在宅種類別の利用率では、訪問看護で高いが、その他のサービス利用率や平均費用額、平均利用日数等は市平均的である。

<地域の課題>

- ・地域包括支援センターへの相談によると、高齢者支援のキーパーソンとなるような親族や身寄りがない方が増加し、孤立した本人は、周囲に対して支援を拒否するなど支援につながり難いケースが増加している。
- ・平成 28 年度の高齢者実態調査によると、地域包括支援センターの認知度が他の圏域に比べ低く、地域包括支援センターを含めた相談機関の周知・啓発をこれまで以上に実施していく必要がある。
- ・自治会未加入者が多く見受けられ、自治会未加入者は地域とのつながりが希薄となっていくため、若い世代にも地域包括ケアを啓発し、地域全体で生活を支える基盤づくりが求められる。

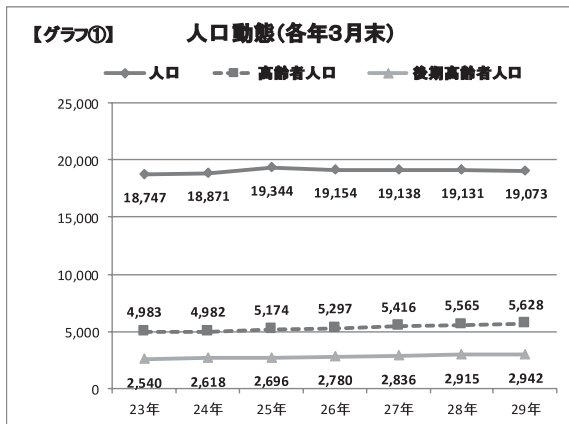
駿河一 八幡山

共通事項

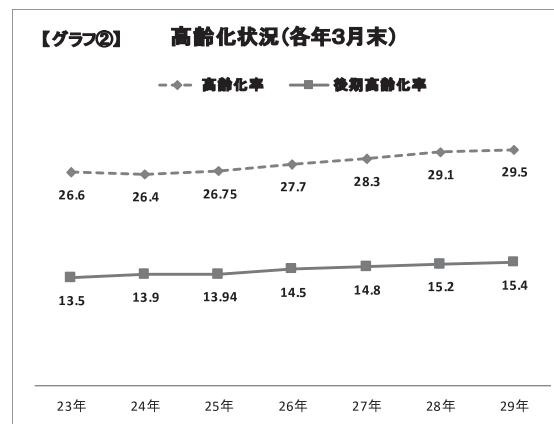
駿河区八幡山圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	19,073人	65歳以上人口	5,628人	高齢化率	29.51%
世帯数	9,344世帯	75歳以上人口	2,942人	後期高齢化率	15.42%
主な小学校区	森下小、富士見小		保健福祉センター	南部	

地理的状況	JR 静岡駅の南側の平坦な市街地である。圏域の東端市中央部に八幡山があり周辺住民の憩いの場となっている。親の代から住み続けている人が多いが、社宅や官舎等も多く転出入も多い。
地域の現状	高齢化率はなだらかに上昇。駿河区域内では高齢化率が最も高い圏域である。大型スーパー等買い物できる所が集中しており、身近に買い物ができる小売店が少ない。圏域内に医療機関が比較的多い。

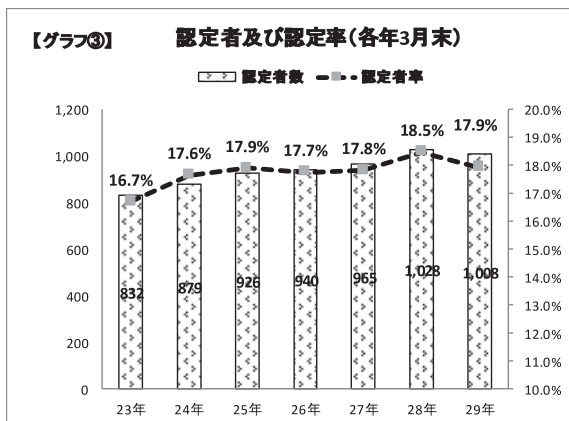
人口推移



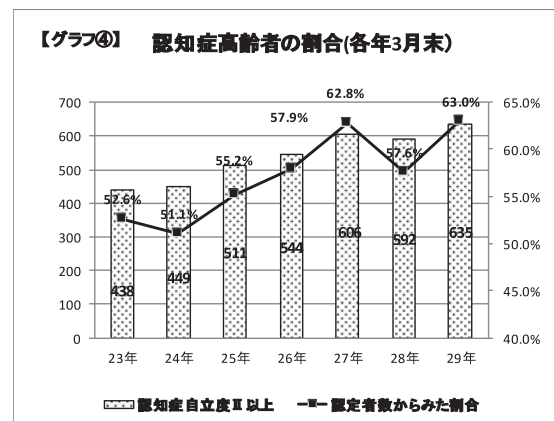
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 27	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 0
病院 : 0	医科診療所 : 24	歯科診療所 : 14	小学校 : 2	中学校 : 0
S 型デイサービス : 8	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 0	地域包括支援センター : 1	

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 3
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 4
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 2

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,000 人と、圏域平均的な利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（148,819 円）は、市平均（145,326 円）よりもわずかに高い。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（18.0%）は、市平均（18.5%）と同水準である。
- ・施設利用者に占める重度者の割合（65.4%）は、市平均（57.4%）よりも高い。
- ・施設種別利用率では、特養と療養型でわずかに高く、老健でわずかに低くなっている。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（118,478 円）は、市平均（114,154 円）と同水準である。
- ・在宅種類別の利用率では、「夜間訪問介護」で若干高いが、それ以外のサービスについては、市平均的である。平均費用額も平均利用日数も市平均的である。

<地域の課題>

- ・地域の自治会が主体となる「高齢者暮らし見守り隊」の見守り活動や公営住宅での有償ボランティアによる高齢者支援活動が始まっているため、このような地域の取組や活動を継続していけるよう支援をしていくことが重要。
- ・公営住宅においては、高齢化率が60%を超えるものもあるが、エレベーターの整備が不十分で階段の昇降が大変になるなど、外出意欲の低下から閉じこもりや孤立化の恐れがあることから、住民の交流機会を創設する居場所づくり等が必要。
- ・活動を継続させるために、活発な地域活動を支えている元気な高齢者の次代を担う人材の発掘および育成を継続的に実施する。

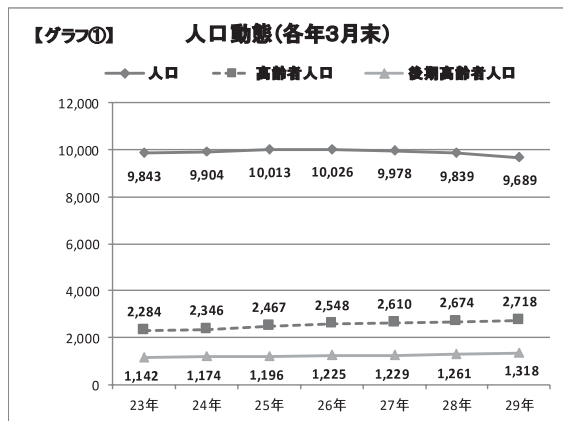
駿河一 3 大谷久能

共通事項

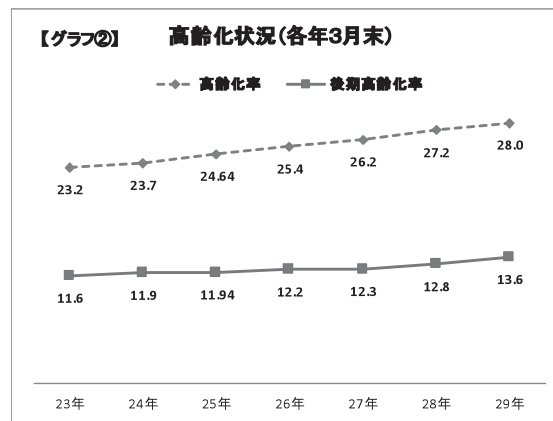
駿河区大谷久能圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	9,689人	65歳以上人口	2,718人	高齢化率	28.05%
世帯数	4,504世帯	75歳以上人口	1,318人	後期高齢化率	13.60%
主な小学校区	大谷小、久能小		保健福祉センター	南部	

地理的状況	大谷地区は大谷街道沿いに南北に長く、東側の丘陵地に人口が集中している。久能地区は、海と山に挟まれた久能街道沿いに、細長く住宅がある。久能山東照宮と石垣いちごが観光名所であり、国道 150 号線は交通量が多い。
地域の現状	畑に出て働く高齢者が多く、家族との同居率が高い農業地域と、団塊の世代が中心で急激な高齢者世帯の増加が予測される昭和 40 年代に造成された住宅団地に大きく2分される。区画整理により、街並みや近隣関係等、生活に大きな変化が生じている地区もある。

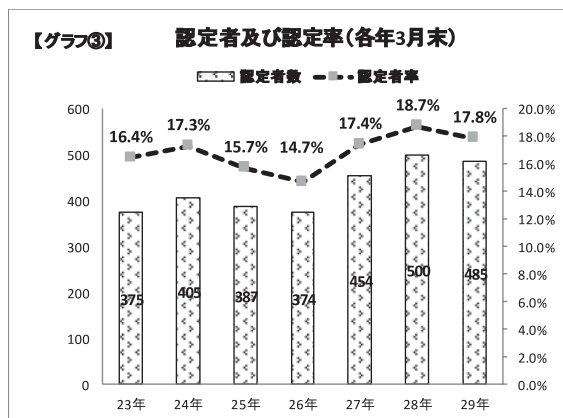
人口推移



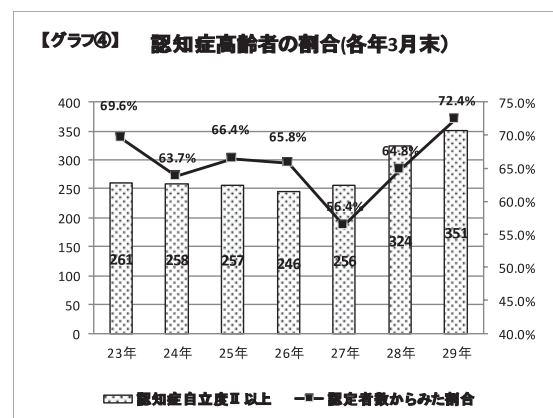
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 15	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 0
病院 : 1	医科診療所 : 5	歯科診療所 : 1	小学校 : 2	中学校 : 0
S 型デイサービス : 3	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 0	介護老人保健施設 : 1	地域包括支援センター : 1

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 3
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 0

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 400 人と、比較的利用人数が少ない圏域である。
- ・1 人当たり費用額（160,082 円）は、市平均（145,326 円）よりも高い。
- ・介護サービス利用者の内、「重度者」の割合が高い。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（23.7%）は、市平均（18.5%）よりも高くなっている。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（121,738 円）は、市平均（114,154 円）よりわずかに高い。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（17.8%）が、市平均（13.4%）よりも高くなっている。
- ・居住利用者の割合（11.3%）も市平均（8.8%）よりも高い。

<地域の課題>

- ・高台の地区は坂道が多く、海岸に沿った地区は、横に長い地域で交通の便が悪いため、高齢者の外出の負担となるケースがあるため、地域住民同士の交流を活性化させるため移動の支援が必要となる。
- ・声をあげるリーダーがいれば、全体として地域づくりや見守り活動等に協力していただける風土がある地域のため、生活支援コーディネーターと協働しながら、地域の支え合い活動を活性化させていくことで、地域力の向上が期待できる。
- ・新旧の世帯の地域活動に対する意識の差が大きいため、大谷地区で始まった子育てサロン等をきっかけとするなど、世代間交流の機会を継続して設けることで、地域全体で生活を支える基盤づくりを進める必要がある。

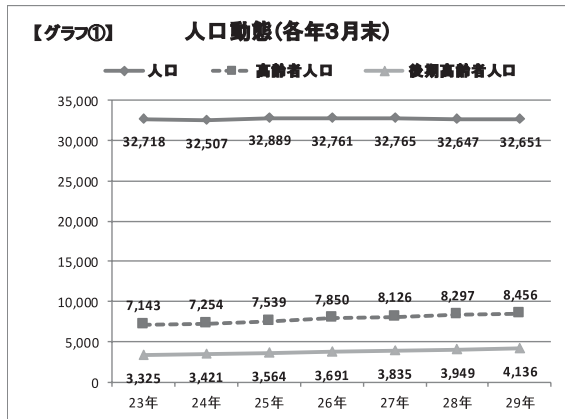
駿河ー4 大里中島

共通事項

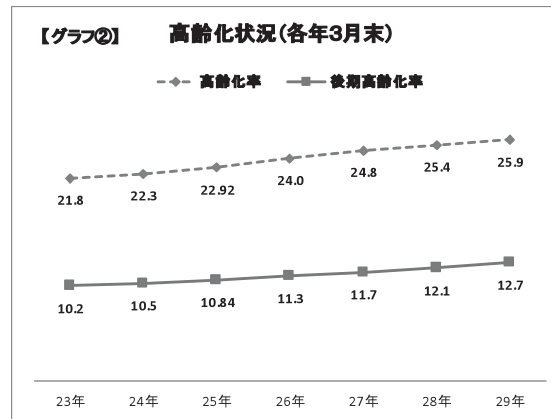
駿河区大里中島圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	30,565人	65歳以上人口	7,876人	高齢化率	25.77%
世帯数	13,627世帯	75歳以上人口	3,811人	後期高齢化率	12.47%
主な小学校区	中島小、大里西小		保健福祉センター	大里	

地理的状況	国道1号線から海岸まで安倍川と大浜街道に挟まれる地域。南北にインター通り、東西に南幹線、SBS通り、国道150号線、丸子池田線など幹線道路が通り、交通が円滑になっている。海岸に近く、東名高速道路より南は高層の建物が少ない。
地域の現状	大里西学区は、若い世代が増え、新しい商店ができるなど町の開発が進んでいるが、中島学区は沿岸部であり、人口流出が見られる。

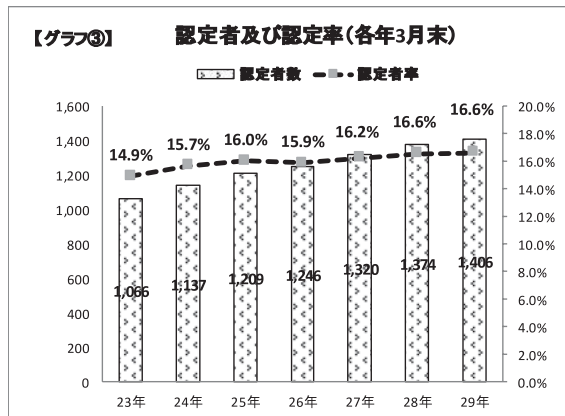
人口推移



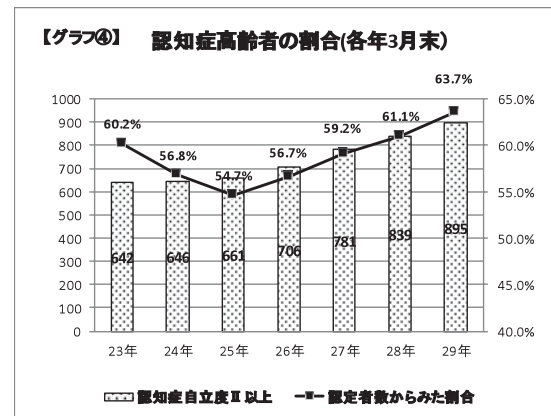
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

【地域資源】

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 20	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 1
病院 : 0	医科診療所 : 18	歯科診療所 : 12	小学校 : 2	中学校 : 2
S型デイサービス : 7	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 4	介護老人保健施設 : 1	地域包括支援センター : 1

【地域密着型サービス事業所数】

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 3
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 5
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 2

【地域特性】**<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>**

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 1,150 人と、圏域平均的な利用人数規模である。
- ・1人当たり費用額（137,921 円）は、市平均（145,326 円）よりもやや低い。

(施設利用)

- ・利用者全体に占める施設の利用率（15.0%）は、市平均（18.5%）よりも若干低くなっている。
- ・重度者に占める施設利用割合（43.4%）は市平均（49.3%）よりわずかに低い。

(在宅利用)

- ・1人当たり在宅費用額（110,604 円）は、市平均（114,154 円）とほぼ同水準である。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（14.0%）が、市平均（13.4%）よりも若干高くなっている。
- ・居住利用者の割合（9.3%）も市平均（8.8%）よりもわずかに高い。

<地域の課題>

- ・複数の幹線道路が縦横に走っており、高齢者の行動を分断している傾向がある。また、在宅で生活する認知症患者の割合が、平均よりやや高く重度化すると徘徊の問題が考えられ、今後は、地域全体によるの見守り体制の構築が必要となる。
- ・S型デイサービス以外で地域の高齢者が気軽に集まる場やでん伝体操の自主グループ、オープンスペース等が不足しているため、認知症予防も含め、介護予防のための居場所づくりが必要と考える。
- ・若い世代が増え、新しい店舗ができる活発な地域と、人口流出がみられる地域など圏域内においても様々な地域を含んでおり、課題も違いがある。特に沿岸部の地域では防災対策の取り組みなど、地域の特性に沿ったアプローチが必要である。

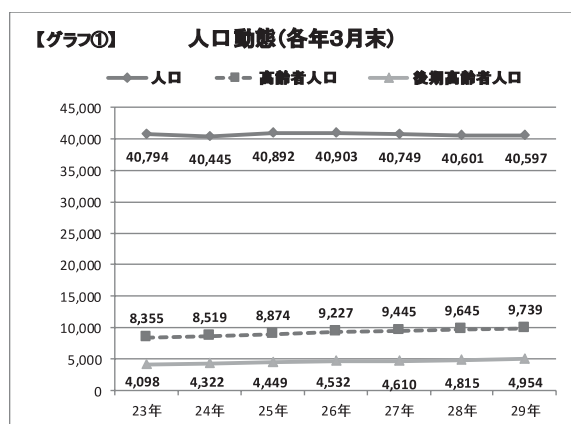
駿河区ー5 大里高松

共通事項

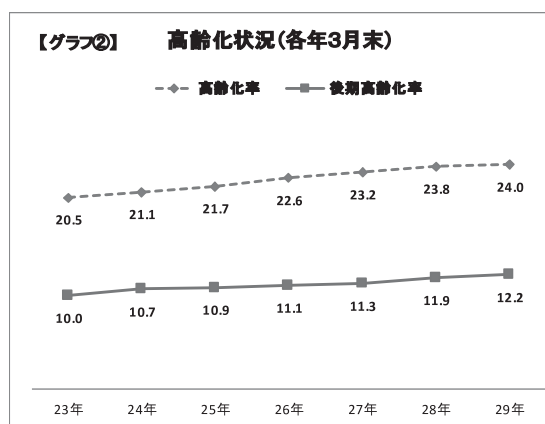
駿河区大里高松圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	40,597人	65歳以上人口	9,739人	高齢化率	23.99%
世帯数	18,404世帯	75歳以上人口	4,954人	後期高齢化率	12.20%
主な小学校区	中田小、大里東小、宮竹小、南部小			保健福祉センター	大里

地理的状況	石田街道、SBS 通り、浜街道など主要道路がある。東名高速道路より南側地域には古くからの住宅地と新興住宅地があり。開業医が集中している地域があり、交通の便も良い。圏域は南北に長く南側は海側に面している。
地域の現状	市の平均よりも高齢化率が低い地域ではあるが、団地などには、ひとり暮らし高齢者も多い。認知者数、認知症高齢者とも市全体同様に増加傾向にある。

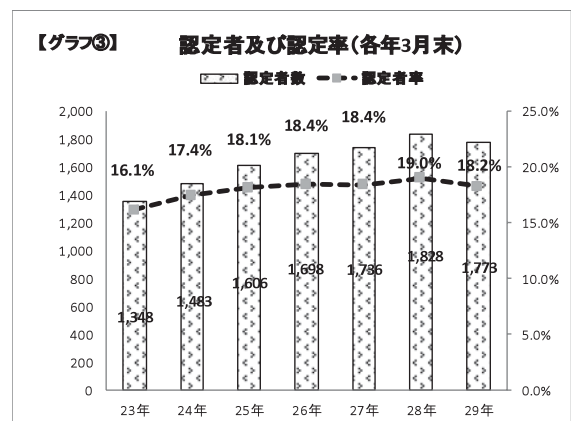
人口推移



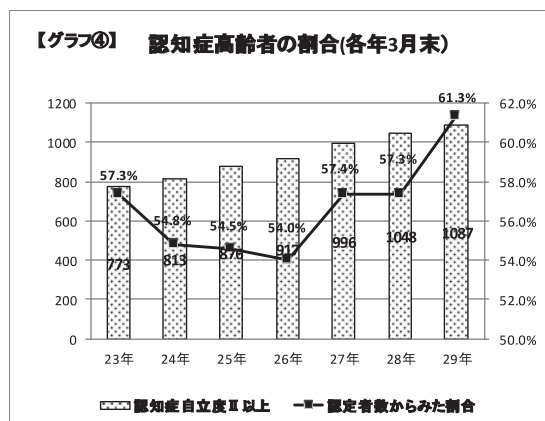
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 41	民児協 : 2	地区社協 : 4	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 1
病院 : 0	医科診療所 : 35	歯科診療所 : 25	小学校 : 4	中学校 : 公 2 私 1
S 型デイサービス : 12	特別養護老人ホーム : 1	老人(在宅)介護支援センター : 1	有料老人ホーム : 3	介護老人保健施設 : 1
地域包括支援センター : 1				

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 2	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 7
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 1	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 9

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,400 人と、圏域平均より多い利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（145,955 円）は、市平均的（145,326 円）である。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（13.5%）は、市平均（18.5%）よりも低い。
- ・重度者に占める施設利用割合（38.4%）は市平均（49.3%）より低い。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（124,329 円）は、市平均（114,154 円）よりも若干高くなっている。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（14.5%）が、市平均（13.4%）よりもわずかに高くなっており、居住利用者の割合（12.5%）も、市平均（8.8%）よりも高い。

<地域の課題>

- ・地域包括支援センターの相談では、認知症に対する相談などにおいて、重症化してからの相談が多い。また、地域との関わりを持たない一人暮らしの高齢者や生活困窮・身寄りがいないなどの課題が複合化した高齢者が増加しているため、支援に困難なケースが増加している。
- ・初期の段階から支援に関われるよう、見守り体制の充実や地域づくりなどの社会参加、介護予防や認知症に対する正しい理解の啓発活動を行うことが必要である。
- ・地域包括支援センターをはじめ各種相談機関の周知を強化し、常日頃から気楽に相談できる体制を構築する。また、サロンや居場所づくりなどにより住民同士の気づきの場を創設する。

駿河ー6 長田

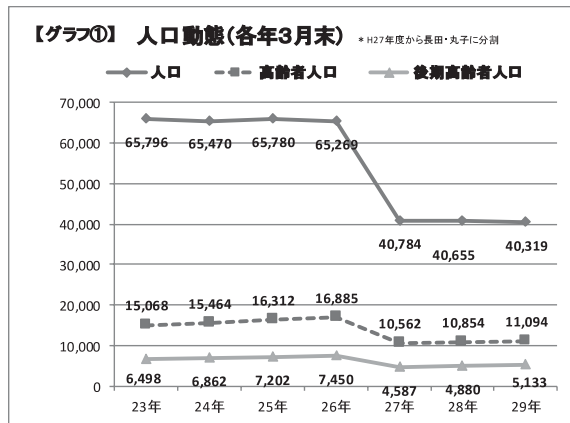
共通事項

駿河区長田圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	40,319人	65歳以上人口	11,094人	高齢化率	27.52%
世帯数	17,175世帯	75歳以上人口	5,133人	後期高齢化率	12.73%
主な小学校区	長田南小、長田東小、川原小		保健福祉センター	長田	

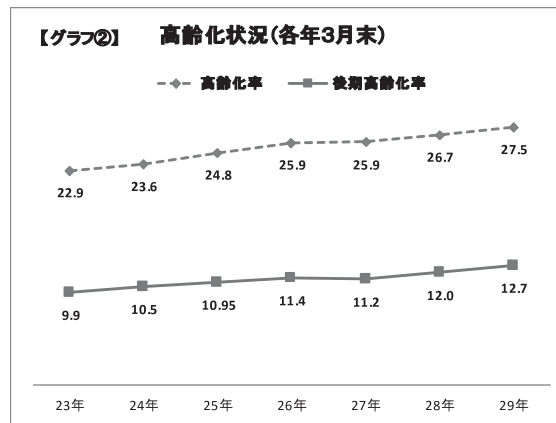
地理的状況	市の西部に位置し、海と山と安倍川に囲まれた自然豊かな地域。用宗港を中心とした漁業地域と桃・葡萄・みかん・茶を中心とした農業地域と安倍川駅を中心とした新興住宅地が混在した地区である。
地域の現状	高齢化率は27.5%であるが、高齢者世帯や独居世帯が多く、年々相談件数も増えている。市の中心部から3キロ離れた、海と山と安倍川に囲まれたのどかな地区で、しらす漁などで知られる用宗港の漁業と桃やみかんお茶などの農業が主な産業。

※平成 27 年から長田・丸子圏域を分割

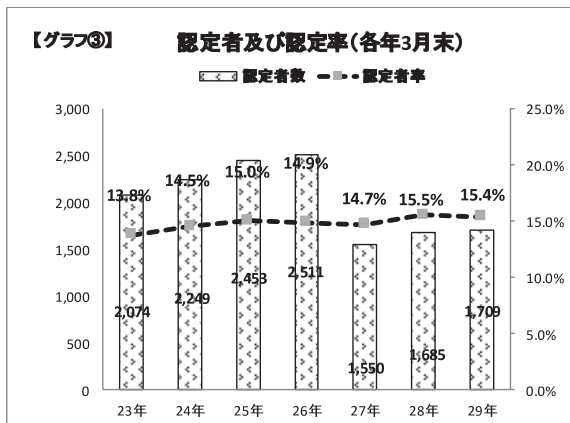
人口推移



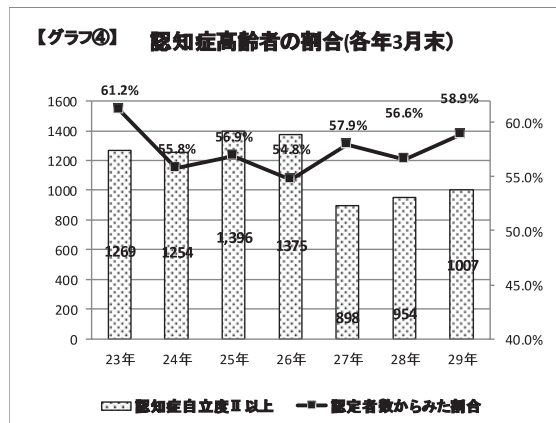
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 28	民児協 : 2	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 1
病院 : 2	医科診療所 : 18	歯科診療所 : 14	小学校 : 3	中学校 : 2
S 型デイサービス : 11	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 3	老人福祉センター : 1	介護老人保健施設 : 1
介護療養型医療施設 : 1	地域包括支援センター : 1			

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 1	認知症対応型共同生活介護 : 5
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 3

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,500 人と、圏域平均より多い利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（143,950 円）は、市平均的（145,326 円）である。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（16.4%）は、市平均（18.5%）よりもわずかに低くなっている。
- ・重度者に占める施設利用割合（44.7%）は市平均（49.3%）より低い。⇒在宅重度者が多い。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（115,747 円）は、市平均的（114,154 円）である。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（15.2%）は、市平均（13.4%）よりも若干高くなっており、居住利用者の割合（8.5%）は市平均的（8.8%）である。
- ・在宅種類別の利用率・平均費用額・平均利用日数は、ほぼ市平均的である。

<地域の課題>

- ・交通手段が乏しく、高齢者が外出、病院の受診、買い物等に苦労し、外出に不便な地域を含んでいるため、今後は、高齢者の免許返納の問題や移動の支援等が課題となってくるとされる。
- ・地縁・血縁の関わりが深い地域も未だに残っているが、少ない地域は、支援が必要な高齢者やその家族が孤立していく状況であるため、見守り等地域全体での支援が必要。
- ・団地など公営住宅では、住民全体の高齢化が進み、自治組織が機能しにくくなっている所もあるため、自治組織の担い手の養成を支援するとともに、周辺での居場所の確保など、地域と関わりの持てる場の創設が必要。

駿河一七 丸子

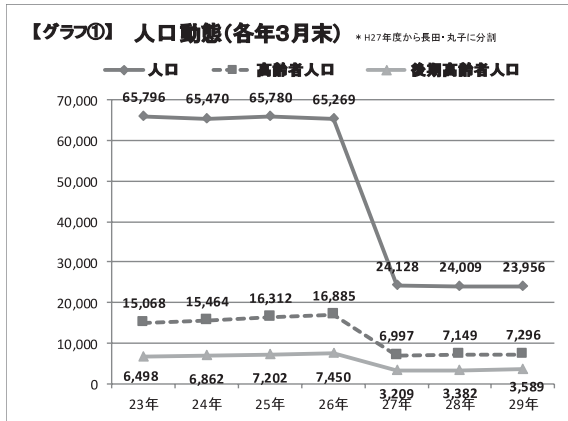
共通事項

駿河区丸子圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	23,956人	65歳以上人口	7,296人	高齢化率	30.46%
世帯数	10,170世帯	75歳以上人口	3,589人	後期高齢化率	14.98%
主な小学校区	長田西小、長田北小		保健福祉センター	長田	

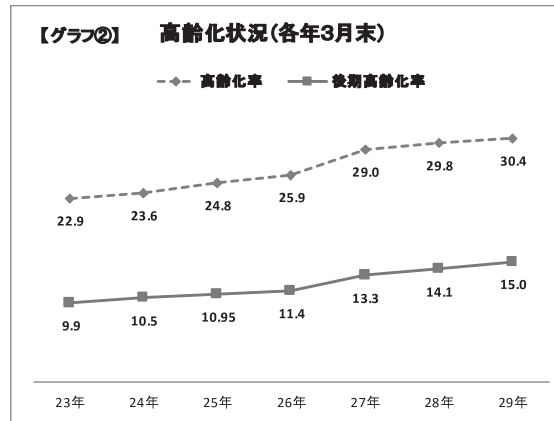
地理的状況	安倍川西側の旧東海道沿いの丸子宿の面影が残る宿場町で、現在は国道一号線が東西を貫いて走る。 圏域内は、住宅街と山間部からなり、山間部の集落では特に高齢化が進んでいる。
地域の現状	旧東海道沿いには旧跡も残る歴史のある街並みだが、山間部は特に高齢化がすすんでおり、ひとり暮らし高齢者も増加している。地域住民による支援活動が活発で、買い物や通院などの移動の支援や認知症の見守り活動等が実施されている。

※平成 27 年から長田・丸子圏域を分割

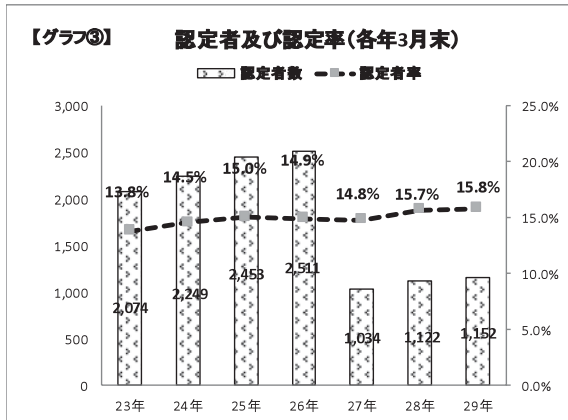
人口推移



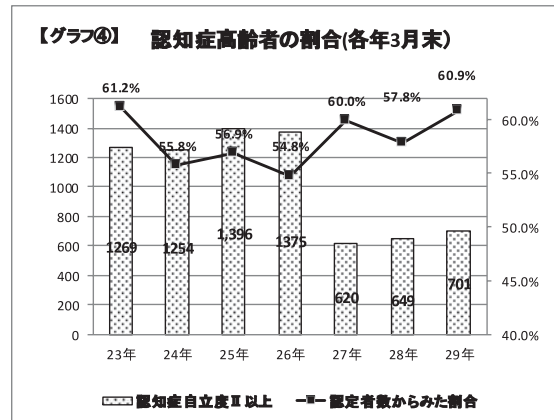
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 52	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 0
病院 : 0	医科診療所 : 16	歯科診療所 : 9	小学校 : 2	中学校 : 1
S 型デイサービス : 9	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 5	介護老人保健施設 : 1	地域包括支援センター : 1

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 1	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 2
小規模多機能型居宅介護 : 3	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 3
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 1	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 1	地域密着型通所介護 : 4

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,000 人と、ほぼ圏域平均的な利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（146,955 円）は、市平均的（145,326 円）である。
- ・利用者の要介護度分布では「重度者」が多い。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（18.8%）は、市平均的（18.5%）である。
- ・重度者に占める施設利用割合（51.6%）も市平均的（49.3%）である。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（112,738 円）は、ほぼ市平均的（114,154 円）である。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（14.9%）は、市平均（13.4%）と同水準であり、居住利用者の割合（6.0%）は市平均（8.8%）よりわずかに低い。

<地域の課題>

- ・活動的な高齢者が多く、自治活動やボランティア活動、社会貢献活動に携わる人が多い。しかし後継者不足と活動する人の高齢化が課題とされているため、地域全体で高齢者の生活を支える気運の醸成と担い手育成の取組が必要。
- ・社会関係が希薄となった独居高齢者や、高齢者と同居する家族も障害をお持ちの方や経済的な問題など、世帯全体への支援が必要な相談が増えているため、それぞれの関係機関が連携して支援する仕組みづくりが課題。
- ・積極的に介護予防に取り組む方は増えているが、できる限り家族や自身の力で頑張る方ほど相談に至った際には重度化しているケースがある。地域包括支援センターをはじめとした相談機関に初期段階から気軽に相談できるよう周知活動を継続していく。

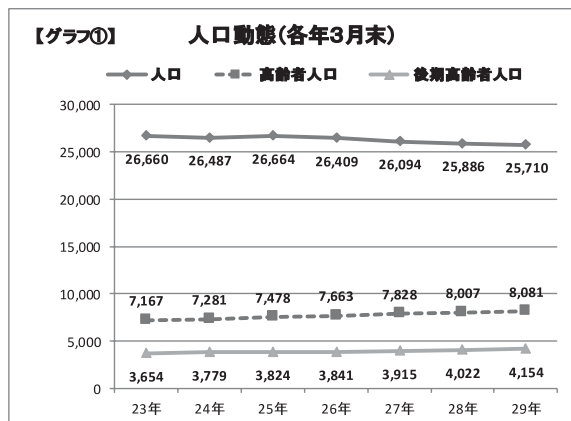
清水 - 1 港北

共通事項

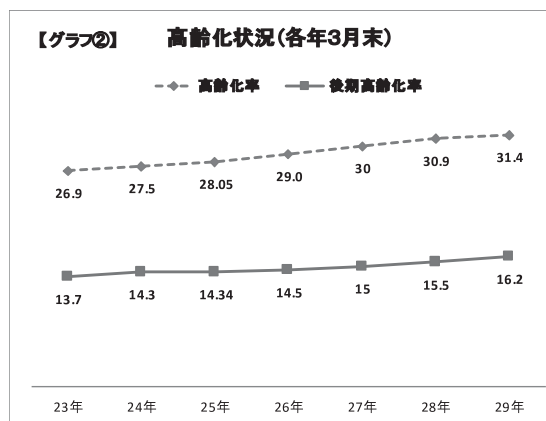
清水区港北圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	25,710人	65歳以上人口	8,081人	高齢化率	31.43%
世帯数	11,283世帯	75歳以上人口	4,154人	後期高齢化率	16.16%
主な小学校区	清水辻小、清水江尻小、清水袖師小			保健福祉センター	清水

地理的状況	清水区の中央、旧東海道沿いに住宅や商店が集中する中心的商業地区である。JR 東海道線・国道 1 号線・バイパス・港湾が通り交通の便が良い。清水駅を中心とした商業地域と港湾を中心とした臨海工業地域となっている。
地域の現状	商業地域に加え、徒歩で通院可能な範囲に医療機関が多数あり、日常生活の利便性に富んでいる。高齢化率が高く、ひとり暮らし高齢者世帯、高齢者のみ世帯が多い。昔からの近所づきあいが多く、声を掛け合って生活しており、地区社協の活動が活発である。

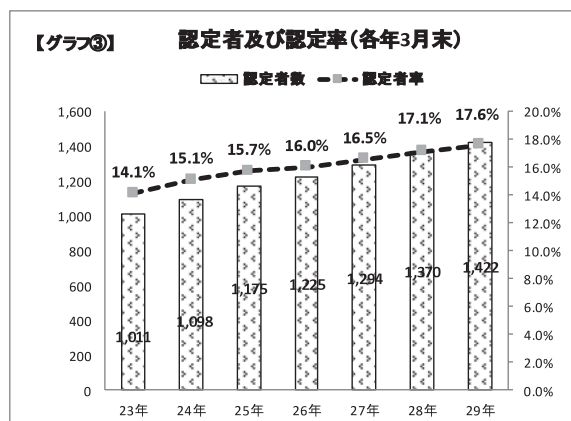
人口推移



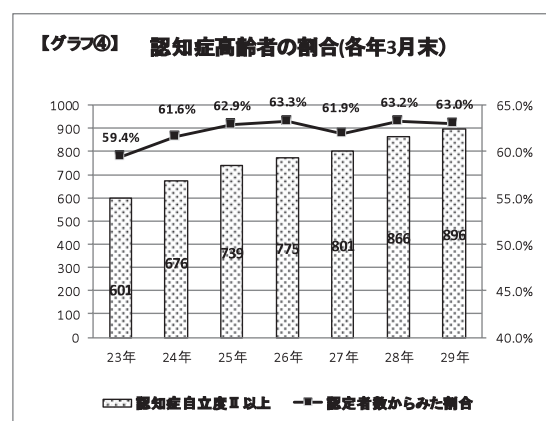
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 35	民児協 : 3	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 3
病院 : 0	医科診療所 : 18	歯科診療所 : 18	小学校 : 3	中学校 : 公 2 私 1
S 型デイサービス : 11	特別養護老人ホーム : 0	有料老人ホーム : 4	老人福祉センター : 1	地域包括支援センター : 1

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 2	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 4
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 1	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 4

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,200 人と、圏域平均と比してやや多い利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（147,549 円）は、市平均的（145,326 円）である。
- ・利用者の要介護度分布では「重度者」がわずかに少なく、「寝たきり」が多い。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（17.5%）は、市平均（18.5%）と同水準か、若干低めである。
- ・重度者に占める施設利用割合（42.1%）は市平均（49.3%）よりわずかに低く、施設利用者に占める重度者の割合（46.3%）は市平均（57.4%）よりも低い。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（118,589 円）は、市平均（114,154 円）より若干高い。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（13.5%）は、市平均（13.4%）と同水準である。
- ・居住利用者の割合（8.7%）は、市平均的（8.8%）である。

<地域の課題>

- ・支援が必要な高齢者の早期発見、問題の重度化を防ぐため地域包括支援センターを一とした相談機関の周知や啓発活動が必要。
- ・身寄りのない独居高齢者が認知症や病気になったときに、支援（受診の開始～介護保険制度の利用、成年後見制度の利用等）が多職種・多機関に及び調整に時間がかかって長期化するケースが増加しているため、他職種間の連携や協働の体制づくりが重要。
- ・高層マンションの新設に伴い、自治会未加入世帯が見られ、住民同士の関係が希薄化するケースや、遠方からの出身で身寄りがない高齢者等、地区によって形は異なるものの、孤立化が進まぬよう地域全体で高齢者の生活を支える気運の醸成し、見守り体制の構築が必要。

清水－2 興津川

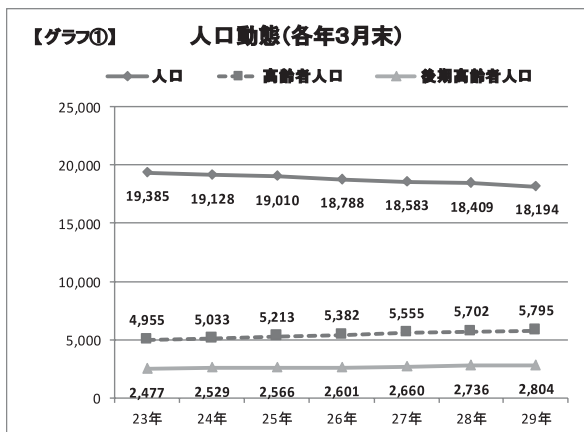
共通事項

清水区興津川圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	18,194人	65歳以上人口	5,795人	高齢化率	31.85%
世帯数	7,371世帯	75歳以上人口	2,804人	後期高齢化率	15.41%
主な小学校区	清水興津小、清水小島小、清水小河内小、清水穴原小			保健福祉センター	清水

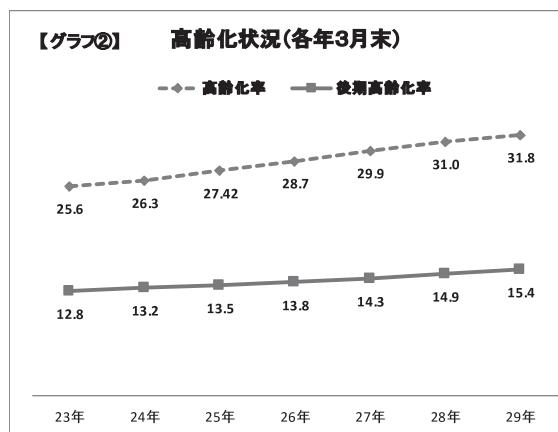
地理的状況
興津川の河口、駿河湾に面し、東西に国道1号線が走り国道52号線の起点となる。興津地区と、国道52号線に沿って、南北に山間地域に広がる小島地区の2つの地区からなる。小島地区は山間に集落が点在する地域がある。甲信越への玄関口、東海道の交通の要所。旧東海道の面影も残す。

地域の現状
県営団地1か所、市営団地が2か所ある。興津地区は、地区社協、民生委員の活動が活発である。小島地区は、昔からの隣同士のつながりが強く、住民の自助や互助の意識が強い。

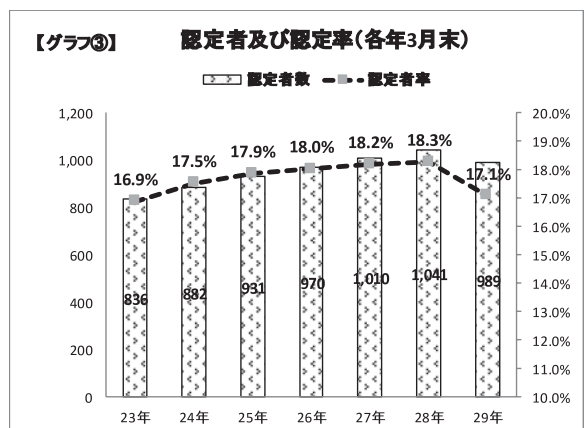
人口推移



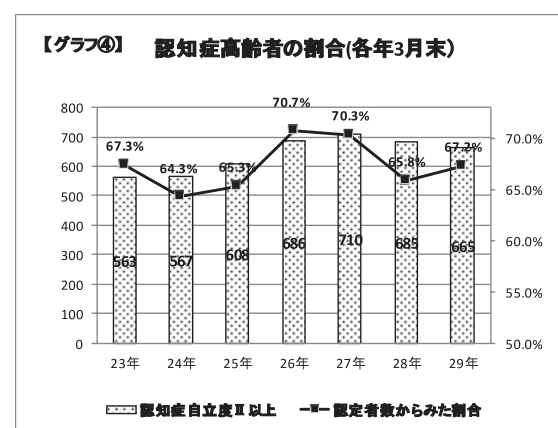
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 14	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 2
病院 : 0	医科診療所 : 9	歯科診療所 : 8	小学校 : 4	中学校 : 2
S 型デイサービス : 15	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 0	老人憩の家 : 1	介護老人保健施設 : 1
地域包括支援センター : 1				

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 4
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 0

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 900 人と、圏域平均的からやや少ない利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（160,711 円）は、市平均（145,326 円）より高い。
- ・利用者の要介護度分布では「重度者」が多く、「軽度者」が少ない。

（施設利用）

- ・利用者全体に占める施設の利用率（29.5%）は、市平均（18.5%）よりも高い。
- ・重度者に占める施設利用割合（61.2%）は市平均（49.3%）より高く、施設利用者に占める重度者の割合（53.3%）は市平均（57.4%）と同水準、やや低めである。（※:重度者が多い）

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（114,097 円）は、市平均（114,154 円）と同水準。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（14.1%）は、市平均（13.4%）よりわずかに高い。

<地域の課題>

- ・同居家族の仕事などを理由に日中独居となる方が多いため、通所介護の利用や短期入所の利用が多い。
これらのことから日中の居場所については需要があると考えられるので、要介護者以外の高齢者も集える居場所づくり等が介護予防の観点からも有効と思われる。
- ・興津駅周辺を除いて商業施設が乏しく、買い物には公共交通機関や自家用車を利用する必要がある。
山間地である小島地区はバスの本数も少なく、また、バス停まで行く道程の起伏が激しく、高齢者には負担が高いため、今後、高齢者の免許返納の問題や移動支援の問題が顕在化してくる可能性がある。
- ・古くからこの地域に住んでいる方が多く、特に小島地区は近隣住民同士の繋がりが強く、自助や共助の意識が大変強い。一方、支援が必要になったときは重篤化していることが多いため、初期段階から気軽に相談機関を利用していただけるよう周知していく。

清水－3 両河内

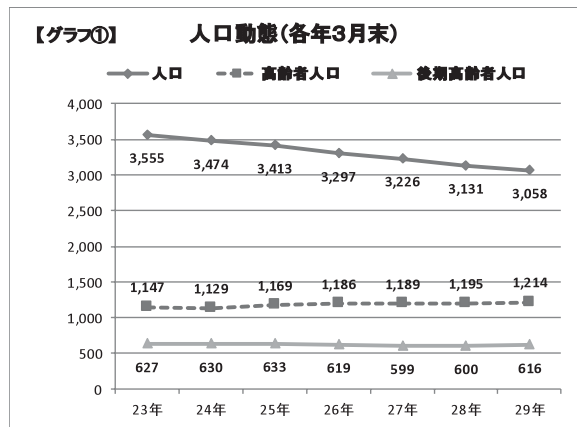
共通事項

清水区両河内圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	3,058人	65歳以上人口	1,214人	高齢化率	39.70%
世帯数	1,273世帯	75歳以上人口	616人	後期高齢化率	20.14%
主な小学校区	清水中河内小、清水西河内小、清水和田島小			保健福祉センター	清水

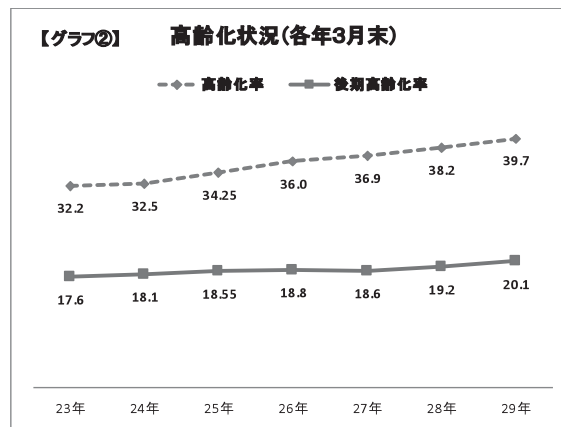
地理的状況
興津川流域に広がる山間地域であり、市街地まで 20 km ある。近年、県道拡張やバイパス延長により車での移動が容易となったが、公共交通機関は市街地まで 1 時間近くかかり、買い物や診療を受けるのに不便さがある。

地域の現状
総人口は年々、減少傾向にあり、高齢化率は約 40% と清水区内で最も高くなっている。若年層の市街地への流出が多いなか、約 8 割の世帯が同居しているが、日中高齢者のみで生活している人は多い。各種サービスが受益しにくい地域であるが、昔からの相互扶助の関係が根づいている地域である。

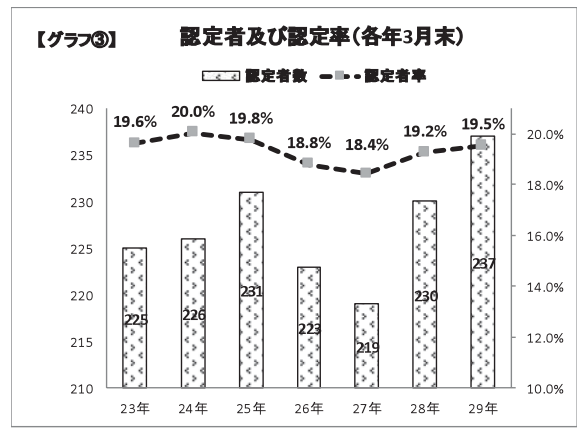
人口推移



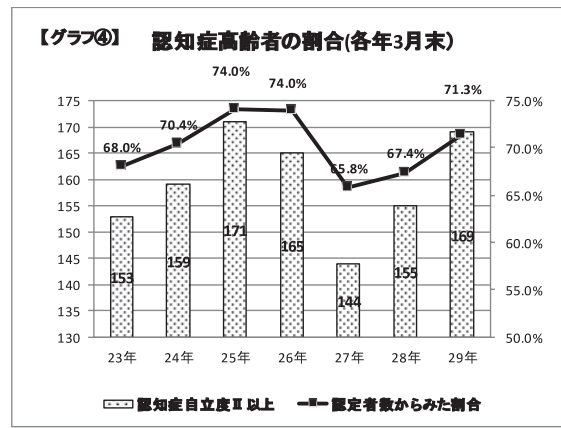
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 13	民児協 : 1	地区社協 : 1	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 1
病院 : 0	医科診療所 : 3	歯科診療所 : 0	小学校 : 3	中学校 : 1
S 型デイサービス : 6	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 0	地域包括支援センター : 1	

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 1
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 3

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 200 人と、かなり少ない利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（167,534 円）は、市平均（145,326 円）よりかなり高い。
- ・「中・重度」が多く、「軽度」が少ない。

（施設利用）

- ・施設の利用率（35.4%）は、市平均（18.5%）よりもかなり高い。（注：特養立地）
- ・重度者に占める施設利用割合（78.4%）は市平均（49.3%）よりかなり高く、施設利用者に占める重度者の割合（57.1%）は市平均的（57.4%）である。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（100,769 円）は、市平均（114,154 円）よりも低い。
- ・（重度の施設利用により）在宅利用者に占める重度者の割合（8.6%）は市平均（13.4%）より低い。
- ・居住利用者の割合（5.1%）も市平均（8.8%）より低い。

<地域の課題>

- ・人口減少と少子高齢化が著しく医療・福祉・介護などサービス資源が少なくサービスを受けにくい山間地であるため、より地域での共助の取組が重要となる。
- ・農業従事者が生活の一部になっている地域住民も多く、体を動かし元気な高齢者も多いが、運動以外にも栄養や口腔ケアなど様々なアプローチによる介護予防の啓発を進める。
- ・地域包括ケアシステムの基礎を成す「市民の自主的な健康長寿の取組の促進（「知・食・体」の取組）」に努める。そのためには、地域の諸機関・社会資源（連合自治会、デマンドバス、交流館、介護保険事業所等）と如何に連携して行くかが課題となる。

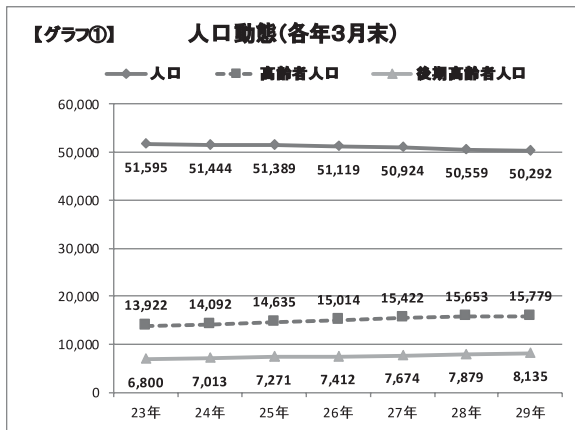
清水－4 港南

清水区港南圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	26,409人	65歳以上人口	8,586人	高齢化率	32.51%
世帯数	11,849世帯	75歳以上人口	4,487人	後期高齢化率	16.99%
主な小学校区	清水入江小、清水浜田小、清水小			保健福祉センター	清水

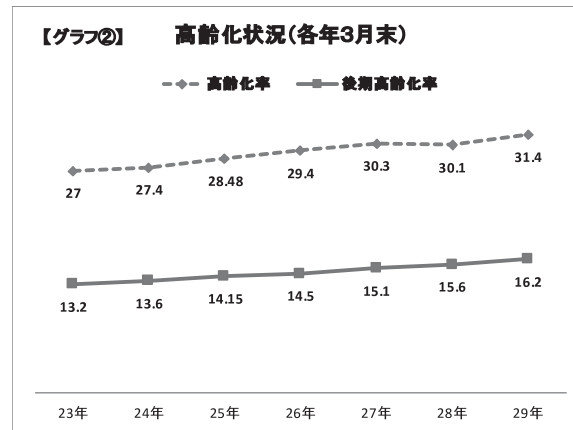
地理的状況	平成 30 年の圏域分割により旧港南圏域から入江・浜田・清水地区が分割され一つの圏域となった。 圏域は南北に長い圏域となったが、古い商店街から、官庁・銀行街もあり旧清水市の中心地を形成した地域である。
地域の現状	入江地区、浜田地区、清水地区からなる地域であるが、それぞれが三者三様の特徴を持つエリアで構成されている。 入江地区は幹線道路が走る郊外の住宅街という様相だが、清水地区は古い街並みが残る。浜田地区は静鉄新清水駅を中心に、観光施設や工場も抱えている。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における港南圏域のデータ

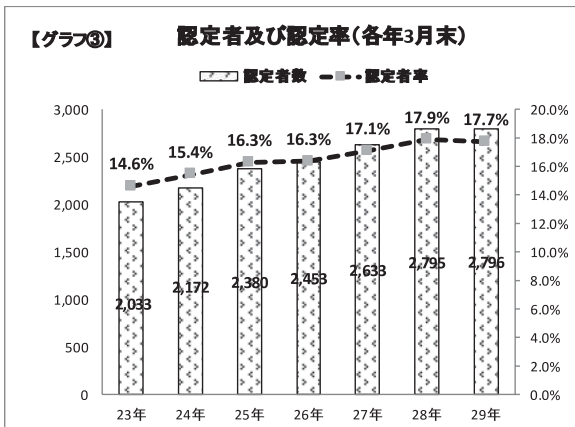
人口推移



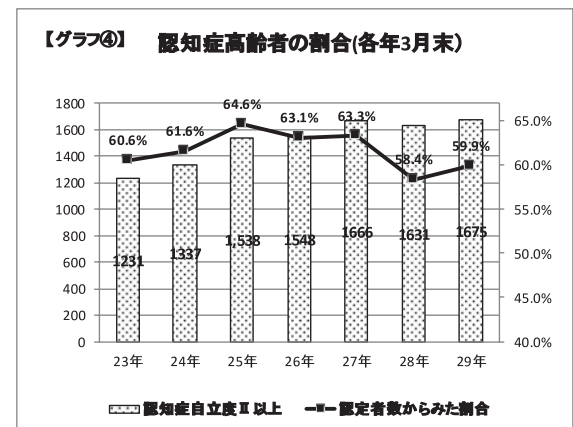
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 50	民児協 : 3	地区社協 : 3	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 3
病院 : 1	医科診療所 : 27	歯科診療所 : 19	小学校 : 3	中学校 : 2
S 型デイサービス : 13	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 3	地域包括支援センター : 1	

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 1	認知症対応型共同生活介護 : 4
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 1	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 6

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,400 人と、比較的利用人数規模が大きい圏域である。
- ・1 人当たり費用額（153,660 円）は、市平均（145,326 円）より若干高い。

（施設利用）

- ・施設の利用率（22.1%）は、市平均（18.5%）よりも若干高い。
- ・重度者に占める施設利用割合（55.2%）は市平均（49.3%）よりわずかに高く、施設利用者に占める重度者の割合（58.1%）は市平均的（57.4%）かわずかに高くなっている。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（117,479 円）は、市平均的（114,154 円）かわずかに高い。
- ・居住利用者の割合（8.1%）は、市平均（8.8%）よりわずかに低い。

<地域の課題>

- ・地域差もあるが、支え合いや自主グループへの主体的な運営への参加には消極的な傾向があるため、まずは、地域全体で高齢者の生活を支えていく基盤づくりが求められる。
- ・平成 28 年度の実態調査から比較的元気な高齢者が多いと推測されるため、今のうちに介護予防に取り組むことの大切さを啓発するとともに、社会参加の場の提供等が必要となる。
- ・認知症を抱える人へ早期の支援が可能となるよう、見守りや啓発を充実するとともに、そのような方をどこにどう繋いで支援していくのか、相談ルートを早急に確立する必要がある。

清水ー5 岡船越

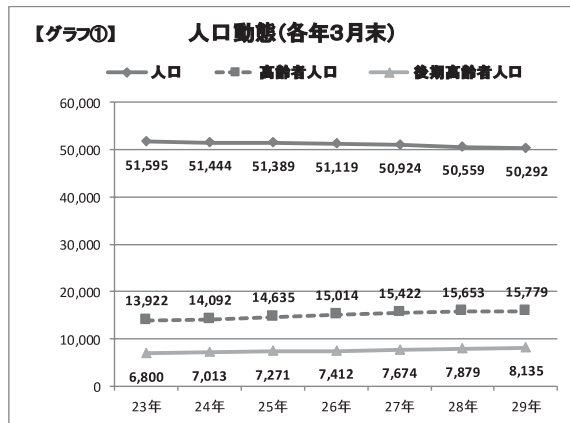
共通事項

清水区岡船越圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	25,080人	65歳以上人口	7,503人	高齢化率	29.92%
世帯数	10,841世帯	75歳以上人口	3,812人	後期高齢化率	15.20%
主な小学校区	清水岡小、清水船越小		保健福祉センター	清水	

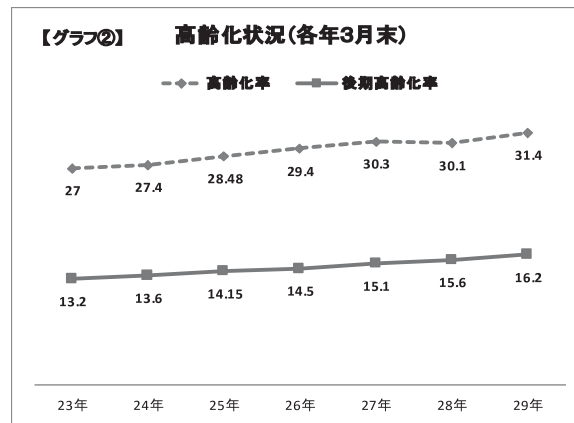
地理的状況	平成 30 年の圏域分割により旧港南圏域から岡地区・船越地区が分割され一つの圏域となった。 圏域内の広くは住宅街であるが、海側から有度山に向けて圏域全体がなだらかな傾斜となっている。
地域の現状	圏域全体として住宅街が広がり、小学校 2 校、中学校、高校 2 校を抱える地域で地域活動も活発である。 比較的若い世代が新築により移り住むこともあるが、高齢化率はやや高めで三世同居の家庭も多い。

※グラフは、平成 29 年 3 月 31 日における港南圏域のデータ

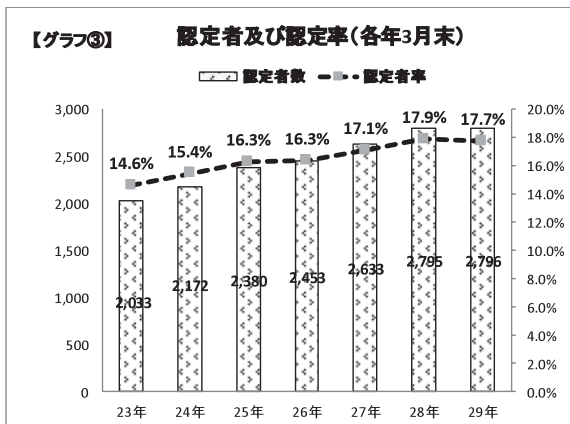
人口推移



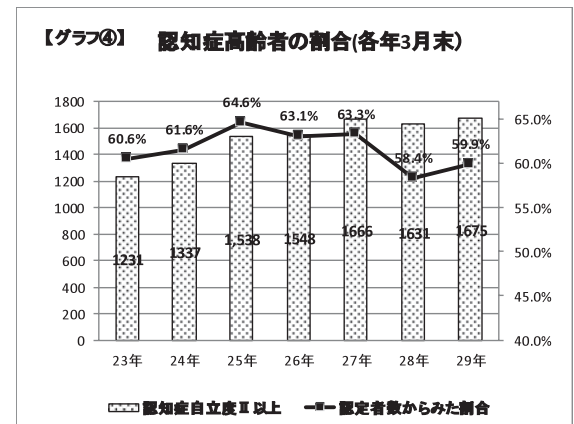
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

【地域資源】

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 25	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 2
病院 : 1	医科診療所 : 22	歯科診療所 : 11	小学校 : 2	中学校 : 1
S 型デイサービス : 10	特別養護老人ホーム : 0	有料老人ホーム : 2	老人福祉センター : 1	地域包括支援センター : 1

【地域密着型サービス事業所数】

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 2
小規模多機能型居宅介護 : 2	看護小規模多機能型居宅介護 : 1	認知症対応型共同生活介護 : 5
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 5

【地域特性】**<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>**

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 1,000 人と、圏域平均的な利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（143,408 円）は、市平均（145,326 円）と同水準である。

(施設利用)

- ・施設の利用率（12.2%）は、市平均（18.5%）よりも低い。

(在宅利用)

- ・1 人当たり在宅費用額（123,498 円）は、市平均（114,154 円）よりもわずかに高い。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（14.7%）は市平均（13.4%）よりわずかに高いが、居住利用者の割合（13.5%）も、市平均（8.8%）より高くなっている。

<地域の課題>

- ・農業を営むなど比較的元気な高齢者が多くお住まいであることから、このような方たちが他の高齢者の見守り活動等に参加したいときにすぐに参加できるような受け皿整備が重要である。
- ・地域での活動が一過性のものでなく継続的なものにするために、地域組織や介護事業所、その他の機関も含め、地域全体で取り組んでいくことが重要であるため、地域ケア会議などを通じて多職種連携に継続的に取り組む必要がある。
- ・圏域には子育て世代も多く、小学校、中学校のみならず高校も 2 校あることから、若い世代への働きかけがしやすい圏域であると言えるため、地域包括ケアを若い世代に啓発していく活動に取り組んでいくことで高齢者の見守り体制の構築を図る。

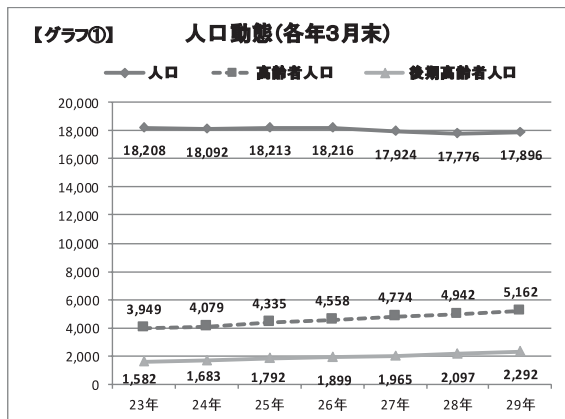
清水-6 高部

共通事項

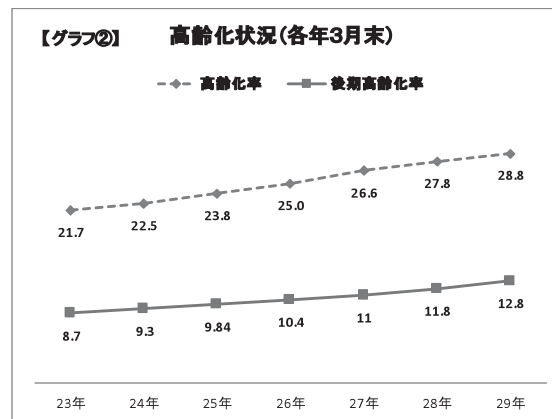
清水区高部圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	17,896人	65歳以上人口	5,162人	高齢化率	28.84%
世帯数	7,349世帯	75歳以上人口	2,292人	後期高齢化率	12.81%
主な小学校区	清水高部小、清水高部東小			保健福祉センター	清水

地理的状況	清水区の北西に位置し、西は葵区瀬名地区に隣接する。巴川を中心とした平地と鳥坂から梅ヶ谷に続く山地で成り立つ。地区の中央を北街道と静清バイパスが通り、交通量が多い。
地域の現状	清水区では最も高齢化率が低い。圏域内に総合病院がなく、開業医も内科系が2か所と少ない。圏域内に県営、市営の集合住宅（団地）が全部で32棟あり、そのうち、エレベーター設置済は2棟である。ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯が多く、他の圏域から転入するひとり暮らし高齢者も多い。

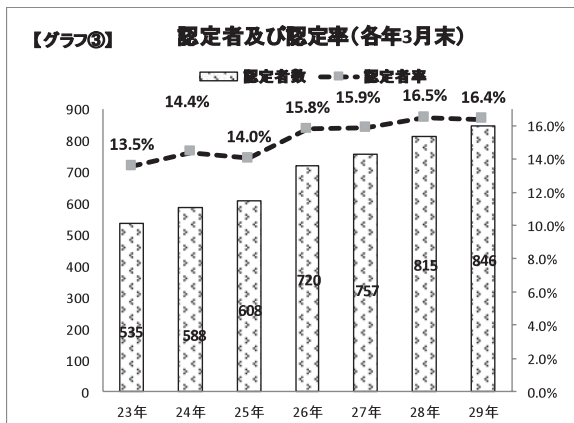
人口推移



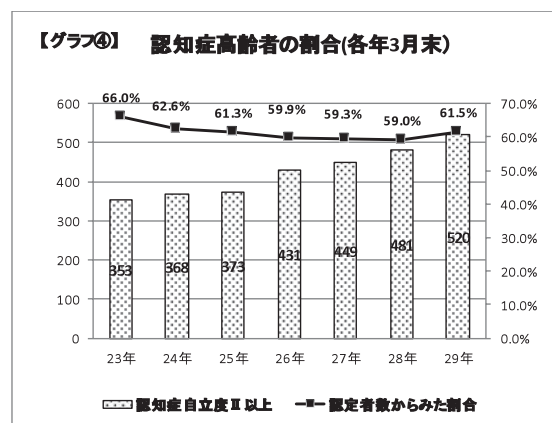
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源 ※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 18	民児協 : 1	地区社協 : 1	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 1
病院 : 0	医科診療所 : 10	歯科診療所 : 6	小学校 : 2	中学校 : 1
S 型デイサービス : 9	特別養護老人ホーム : 2	有料老人ホーム : 3	介護老人保健施設 : 1	地域包括支援センター : 1

地域密着型サービス事業所数 ※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 1	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 6
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 4

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 700 人と、圏域平均よりも若干少ない利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（141,435 円）は、市平均（145,326 円）と同水準か、わずかに低い。

（施設利用）

- ・施設の利用率（20.3%）は、市平均（18.5%）と同水準か、若干高めである。
- ・それにより、施設利用者に占める重度者の割合（51.4%）は市平均（57.4%）より低い。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（106,948 円）は、市平均（114,154 円）よりもわずかに低い。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合（12.5%）は市平均（13.4%）よりわずかに低い。
- ・利用者に占める「居住」利用割合（8.9%）は、市平均的（8.8%）である。

<地域の課題>

- ・外出先が圏域外などで公共交通機関を利用しなければならない状況であったり、外出の機会が介護保険の通所系サービス利用時という高齢者が多い。小規模でも、近隣に、すぐに通えるサロンや居場所等があれば、介護予防が進む可能性がある。
- ・平成 28 年度実態調査では、グループ活動などの運営に参加してもよいと思っている住民の割合が多いが、参加につながっていないのは、地域にこれらの受け皿となる活動が少ないという見方もできるので、啓発活動を実施し、高齢者の社会参加の受け皿の提供を検討する。
- ・団地など公営住宅には、経済的な困窮、通院などの移動が困難、親族と疎遠であり本人が望んでも親族からの支援が受けられないなど福祉的な課題を抱えた住民が多く住んでいるため、早期に関わりを持ち、支えられるような地域ネットワークの構築を図る。

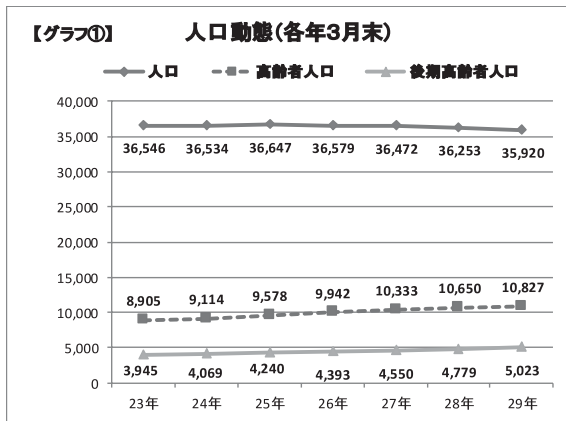
清水一 7 飯田庵原

共通事項

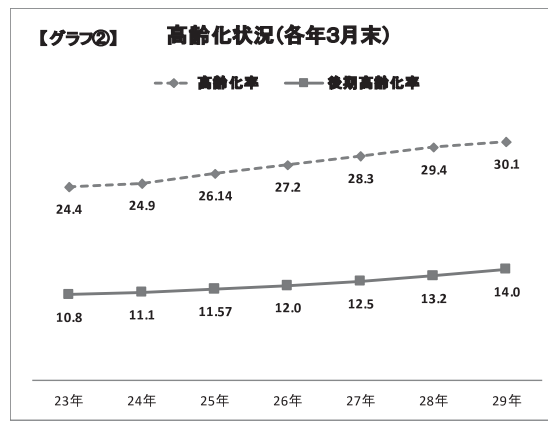
清水区飯田庵原圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	35,920人	65歳以上人口	10,827人	高齢化率	30.14%
世帯数	14,465世帯	75歳以上人口	5,023人	後期高齢化率	13.98%
主な小学校区	清水飯田小、清水飯田東小、清水庵原小			保健福祉センター	清水

地理的状況	東西に国道1号線バイパスが走り、東名清水インターがある。北は両河内圏域に繋がる山間地。庵原地区は、区内を流れる3つの河川に沿って集落がある。主な交通手段はバス、交通の便は悪く、車での移動が多い。飯田地区は、静清バイパスで静岡地域の総合病院も利用しやすい環境にある。
地域の現状	飯田地区、庵原地区ともに地区社協を中心としたボランティア活動が盛んである。人口は減少しているが、生産年齢人口が10年前と比べて増加している。

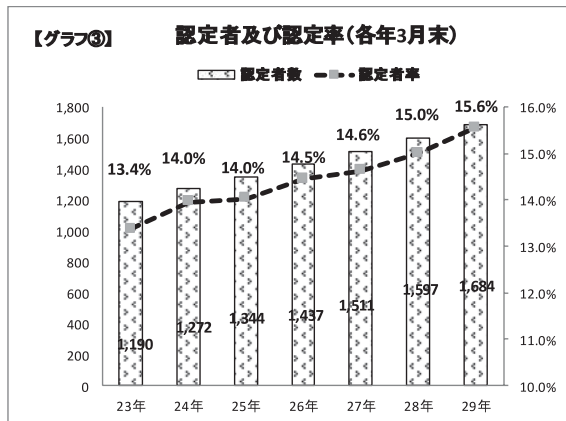
人口推移



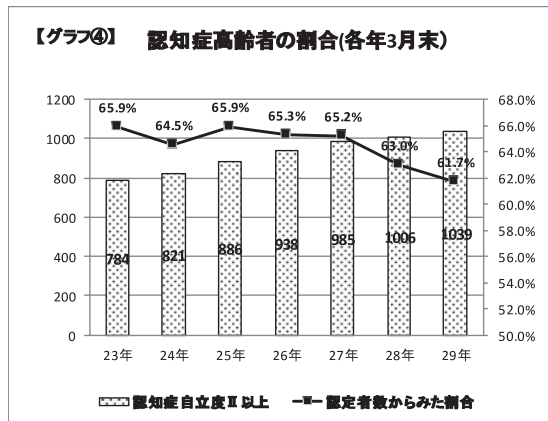
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源 ※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 29	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 1	生涯学習施設 : 2
病院 : 2	医科診療所 : 10	歯科診療所 : 6	小学校 : 3	中学校 : 2
S型デイサービス : 21	特別養護老人ホーム : 4	老人(在宅)介護支援センター : 1	有料老人ホーム : 0	軽費老人ホーム : 1
世代間交流センター : 1	介護老人保健施設 : 4	地域包括支援センター : 1		

地域密着型サービス事業所数 ※平成 30 年 3 月末時点 (指定見込み数含む)

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 2
小規模多機能型居宅介護 : 2	看護小規模多機能型居宅介護 : 1	認知症対応型共同生活介護 : 5
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 :

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 1,400 人と、比較的大きい利用人数規模である。
- ・1人当たり費用額(141,996円)は、市平均(145,326円)と同水準か、わずかに低い。

(施設利用)

- ・施設の利用率(20.8%)は、市平均(18.5%)と同水準か、若干高めである。
- ・それにより、施設利用者に占める重度者の割合(55.6%)は市平均(57.4%)より低い。

(在宅利用)

- ・1人当たり在宅費用額(106,753円)は、市平均(114,154円)よりもわずかに低い。
- ・在宅利用者に占める重度者の割合(12.4%)は市平均(13.4%)よりわずかに低い。
- ・利用者に占める「居住」利用割合(4.4%)が、市平均(8.8%)よりも低い。

<地域の課題>

- ・平成 28 年度実態調査では、地域包括支援センターの役割を知らない・場所を知らないと回答した高齢者が他の地域と比較して多いため、早期、相談支援につなげるために、地域包括支援センターを一とした相談機関の周知活動が必要である
- ・圏域内の病院を中心とした、医療・介護・福祉等の専門機関の連携の取り組みが開始されているため、これを継続するとともに、どのように地域住民に還元していくかについて検討する。
- ・在宅で生活する軽度の認知症の高齢者、一人暮らし高齢者、日中独居高齢者が地域において安心して生活するために、認知症の理解や制度の理解、インフォーマルサービスの周知をし、見守り機能の強化、見守りシステムの構築を図る必要がある

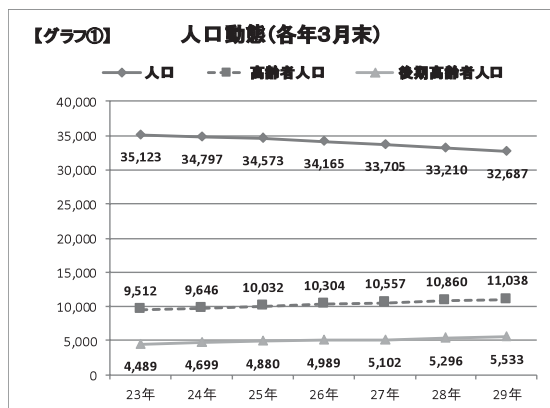
清水一 8 松原

共通事項

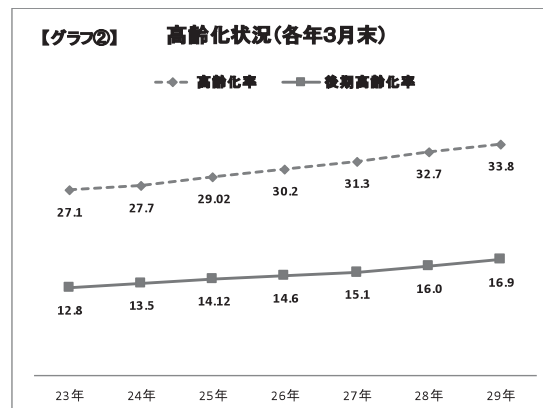
清水区松原圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	32,687人	65歳以上人口	11,038人	高齢化率	33.77%
世帯数	14,896世帯	75歳以上人口	5,533人	後期高齢化率	16.93%
主な小学校区	清水不二見小、清水駒越小、清水三保第一小、清水三保第二小			保健福祉センター	清水

地理的状況	不二見、駒越、折戸、三保の地区。日本平から三保半島に続く地域である。駿河区の久能地区と清水区の駒越地区は、国道150号線でつながり、石垣いちごで有名である。三保地区は三保街道が走り三保の松原もある。
地域の現状	圏域内に4つの地区があり、それぞれ異なった特性を持っている。農家が多く、畑仕事等で元気な高齢者が多い。清水区の他の地域と比べて受診率が低い。総合病院は1か所あるが、開業医は少なく、往診できる医師も少ない。ボランティアの育成や各種行事の開催など、地区社協や民児協の活動は盛んである。

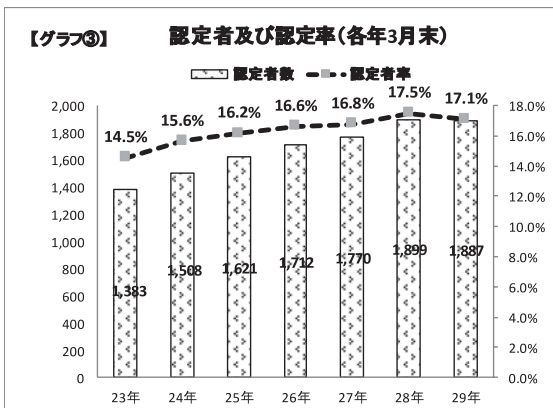
人口推移



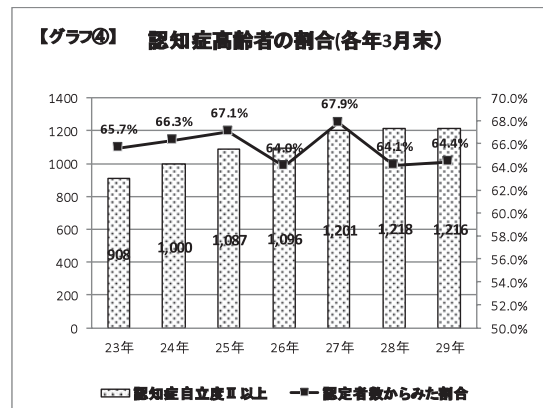
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 44	民児協 : 4	地区社協 : 4	交番・駐在所 : 3	生涯学習施設 : 4
病院 : 3	医科診療所 : 22	歯科診療所 : 7	小学校 : 公 4 私 1	中学校 : 公 2 私 1
S 型デイサービス : 19	特別養護老人ホーム : 3	有料老人ホーム : 3	養護老人ホーム : 1	老人福祉センター : 1
世代間交流センター : 1	老人憩の家 : 1	介護老人保健施設 : 2	地域包括支援センター : 1	

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 2	看護小規模多機能型居宅介護 : 1	認知症対応型共同生活介護 : 5
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 7

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 1,600 人と、比較的大きい利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（151,737 円）は、市平均（145,326 円）よりわずかに高い。

(施設利用)

- ・施設の利用率（19.2%）は、市平均（18.5%）とほぼ同水準である。
- ・施設利用者に占める重度者の割合（58.1%）は市平均（57.4%）と同水準である。

(在宅利用)

- ・1 人当たり在宅費用額（119,528 円）は、市平均（114,154 円）よりもわずかに高い。
- ・利用者に占める「居住」の割合（9.8%）は、市平均（8.8%）と同水準であり、在宅利用者に占める重度者の割合（13.4%）も市平均的（13.4%）である。

<地域の課題>

- ・支援が必要な高齢者が、いつ・どこに・どのように相談したらよいかかわからずにいる間に発見が遅れ、重篤化してから相談につながるケースが増加しているため、地域包括支援センターを一とした相談機関の周知活動を強化し、平常時にも気軽に声かけできるよう浸透を図る。
- ・頼ることができる身内が近くにいない独居高齢者、高齢者夫婦世帯が多く、通院、買い物に困る方が増えているものの地域の社会福祉法人の取り組み等で高齢者の移動支援も始まっている。これらの活動が一過性のものでなく継続させていくためにも地域組織や介護事業所、その他の機関も含め、地域全体で取り組んでいくことが重要である。
- ・高齢者の親と障がいを持つ子の世帯で、今後、高齢者の親に支援が必要となることが予想される世帯が各圏域で課題となっているが、まずこのような世帯がどの程度あるのか把握する方法について検討する。

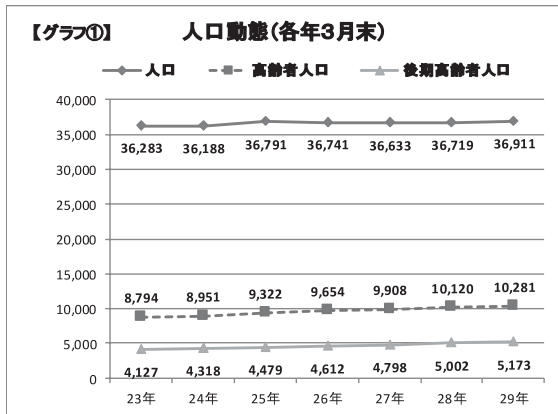
清水－9 有度

共通事項

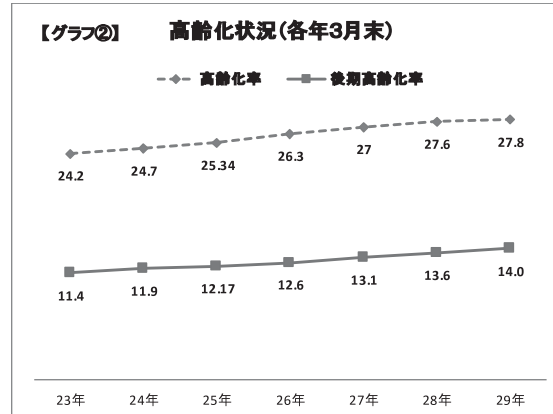
清水区有度圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	36,911人	65歳以上人口	10,281人	高齢化率	27.85%
世帯数	16,155世帯	75歳以上人口	5,173人	後期高齢化率	14.01%
主な小学校区	清水有度第一小、清水有度第二小		保健福祉センター	清水	

地理的状況	東西に地区を横断する形で国道1号線、南幹線、JR、静岡鉄道が走る。南は有度山の北側に伸びる丘陵地である。国道北側は広い平野である。南側にはJR東海道線の草薙駅、静鉄の御門台駅周辺に商店街がある。
地域の現状	圏域内には児童館、医療機関、教育施設、運動施設などの社会資源が豊かな地域である。 国道1号線や鉄道の駅があるなど、交通の便は良い地区もあるが、駅から離れた公共交通機関の利便性が低い地区では、生活上の不便が生じ、外出機会を失ってしまう一因となっている。

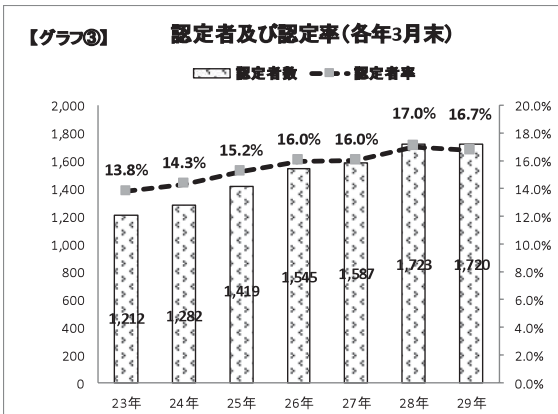
人口推移



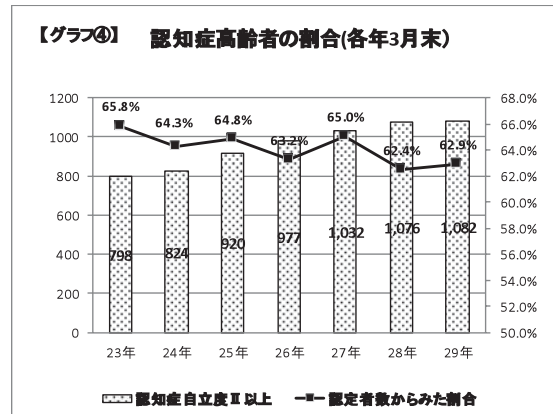
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 33	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 1
病院 : 0	医科診療所 : 27	歯科診療所 : 18	小学校 : 公 2 私 1	中学校 : 公 1 私 1
S 型デイサービス : 7	特別養護老人ホーム : 1	有料老人ホーム : 3	介護老人保健施設 : 1	地域包括支援センター : 1

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 2	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 1
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 7
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 4

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

（地域特性）

- ・介護サービスの利用人数は約 1,400 人と、比較的大きい利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（150,249 円）は、市平均（145,326 円）よりわずかに高い。

（施設利用）

- ・施設の利用率（18.3%）は、市平均（18.5%）とほぼ同水準である。
- ・施設利用者に占める重度者の割合（63.7%）は市平均（57.4%）よりも若干高い。

（在宅利用）

- ・1 人当たり在宅費用額（120,081 円）は、市平均（114,154 円）よりもわずかに高い。
- ・利用者に占める「居住」の割合（9.8%）は、市平均（8.8%）とほぼ同水準であり、在宅利用者に占める重度者の割合（13.9%）も市平均的（13.4%）である。

<地域の課題>

- ・新興住宅が多く、草薙エリアには大規模なマンションや集合住宅の建設が進んでいる。他地域からの転入される方が今後も増えることが予測されるため、さらに住民どうしの「顔のみえる」関係づくりが必要である。
- ・医療機関や、介護保険施設が充実しており、利用されている方も多い。認知症の方も今後増えることが予測され、早期に適切な医療、介護の支援が関われるような仕組みづくりが必要である。
- ・集合住宅の増加、住民の高齢化、高齢者世帯、独居世帯の増加により、社会的交流がとれなくなる恐れがあり、異常時の早期発見や見守りがされにくい地域もある。ボランティア意識が高い方も多く、さらに助け合い等の住民活動を活発化し、このような方々の受け皿となる活動を継続的に実施できるよう支援していくことが重要となる。

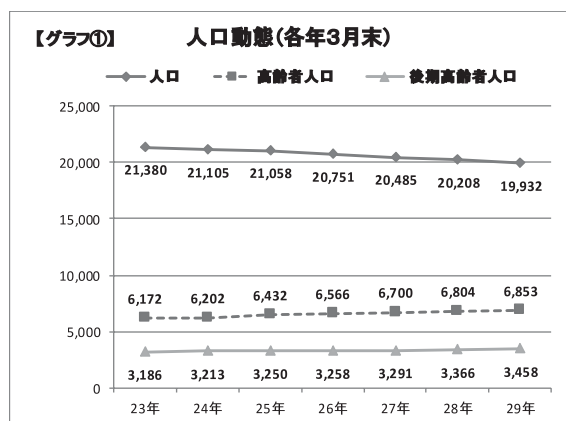
清水-10 蒲原由比

共通事項

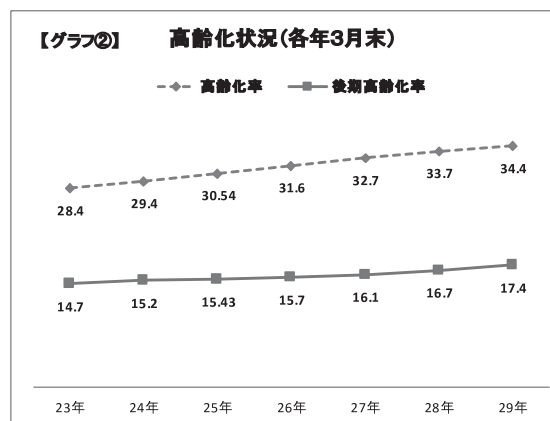
清水区蒲原由比圏域				平成 29 年 3 月末現在	
人口	19,932人	65歳以上人口	6,853人	高齢化率	34.38%
世帯数	7,824世帯	75歳以上人口	3,458人	後期高齢化率	17.35%
主な小学校区	蒲原東小、蒲原西小、由比小、由比北小			保健福祉センター	清水

地理的状況	富士川河口右岸に位置し、東は富士川を境に富士市と接している。東西に伸びる帯状の平坦地に市街地が形成され一部山間地に集落が点在する。国道1号線などの道路網とJR東海道線が東西に走っており、交通の便が良い。
地域の現状	高齢化が進行し、認知症高齢者や生活習慣病の相談が増加しており、ニーズの多様化がある一方、支援する家族や近隣地域の高齢化が進み、そのニーズに応えるだけの介護事業所の多様さを持ち合わせていない。

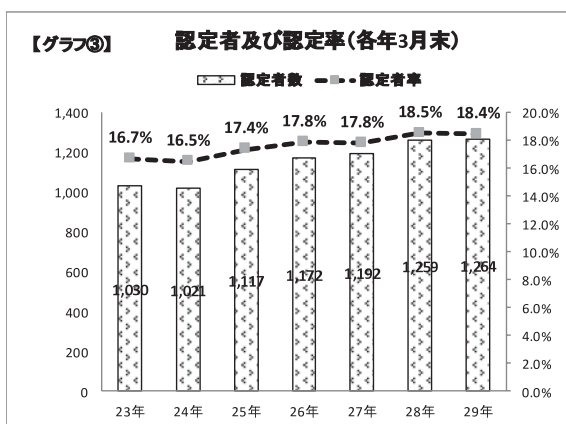
人口推移



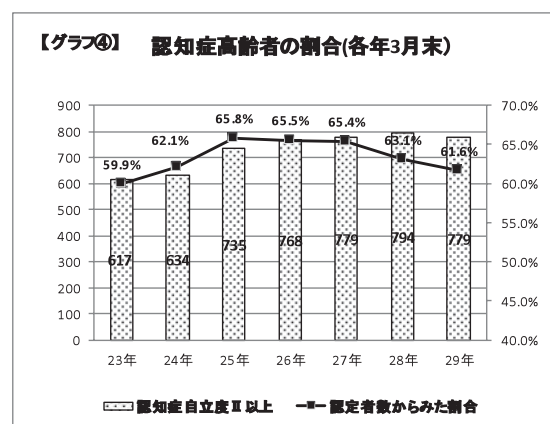
高齢化率の推移



認定者数の推移



認知症高齢者数の推移



資料編

地域資源

※平成 29 年 4 月 1 日時点 自治会・町内会数は小学校区を基にしています

自治会・町内会 : 30	民児協 : 2	地区社協 : 2	交番・駐在所 : 2	生涯学習施設 : 2
病院 : 0	医科診療所 : 11	歯科診療所 : 9	小学校 : 4	中学校 : 2
S 型デイサービス : 16	特別養護老人ホーム : 2	老人(在宅)介護支援センター : 1	有料老人ホーム : 0	老人福祉センター : 1
世代間交流センター : 1	地域包括支援センター : 1	地域包括支援センター (由比窓口) : 1		

地域密着型サービス事業所数

※平成 30 年 3 月末時点（指定見込み数含む）

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 : 0	夜間対応型訪問介護 : 0	認知症対応型通所介護 : 0
小規模多機能型居宅介護 : 0	看護小規模多機能型居宅介護 : 0	認知症対応型共同生活介護 : 3
地域密着型特定施設入居者生活介護 : 0	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 : 0	地域密着型通所介護 : 5

地域特性

<介護サービス給付分析から見る圏域の特徴>

(地域特性)

- ・介護サービスの利用人数は約 1,100 人と、ほぼ圏域平均的な利用人数規模である。
- ・1 人当たり費用額（152,407 円）は、市平均（145,326 円）より若干高い。

(施設利用)

- ・施設の利用率（23.3%）は、市平均（18.5%）より高い。
- ・施設利用者に占める重度者の割合（52.2%）は市平均（57.4%）よりも若干低い。

(在宅利用)

- ・1 人当たり在宅費用額（114,338 円）は、市平均（114,154 円）とほぼ同水準である。
- ・利用者に占める「居住」の割合（6.2%）は、市平均（8.8%）よりわずかに低く、在宅利用者に占める重度者の割合（11.3%）も市平均（13.4%）よりわずかに低い。

<地域の課題>

- ・地域の高齢者同士がお互いのことを良く知っており強い関係性を持っているため、近隣関係者が高齢者の変化に気づきやすく相談が多方面より入り、見守り支援が自然にできているケースが多い。一方で、世代による価値観や意識の差から、その関係性を負担と感じ、地域と閉鎖的な関係になる方もいるので、世代間交流できる機能が必要である。
- ・災害時に孤立してしまう恐れがあるため、地域の方々を含めた災害時の対応について検討するとともに、地域全体で支えあうことができるような意識の醸成を図る
- ・サービスの種類や事業所・施設が少なく、地理的に他圏域からのサービスも入りにくく医療施設も少ない。故に、介護の必要な高齢者の選択肢が限られてしまうため、可能な限り要介護にならないために介護予防の取り組みを一層強化する必要がある。